

# 戸田市の教育における EBPM（EIPP）の推進について

## AIでの代替は難しい力などの育成

AIでは代替できない能力の育成と、AIを活用できる能力 **生成AIの光（相談的活用）と影**  
**21世紀型**スキル、**汎用的**スキル、**非認知的**（社会情緒的）スキルを育成

## 産官学と連携した知のリソースの活用

**産官学と連携**した知のリソースの活用。それも、ファーストペンギンを目指すことで、  
安価で効率的に、最先端の質の高い教育が提供されるはず

## 「経験と勘と気合い（3K）」から「客観的な根拠」への船出

教育のEBPMの重要性の認識（量的と質的エビデンス）

- **episode-based** から **evidence-based** へ
- **evidence-based** から **evidence-informed** へ
- EBPMから**EIPP**（Evidence Informed Policy and Practice）へ

## 授業や生徒指導等を科学する

- 教育の現場は**科学的**であるべき **science based** へ
- 優れた教師の**経験や勘**、匠の**指導技術**を、**言語化・可視化・定量化**するなど、**暗黙知を共有化**したり**形式知へ転換**したりして、若手に**効率的・効果的に伝承**していくべき。そのため**教育データを積極的に利活用**していくべきである

# 教育を科学する当面の方向性

## 現状・課題

- 1
- ✓ 教師の経験と勘と気合い（3K）のみによる教育から脱却し、客観的な根拠に基づく教育に転換する必要
  - ✓ 子供たちが主体的に自らの考えを外化したり、学びのプロセスを共有したりする中で、**子供も教師もリフレクションが深まる気付きを多く得る**ことが必要

### 授業を科学する

- ## 当面の方向性
- 引き続き、アクティブ・ラーニング（AL）指導用ルーブリック・戸田市版SAMRモデルの活用と児童の変容の見取りによる、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けたデータ駆動型の授業研究を推進**
  - 全ての教師の指導改善に繋がられるよう、**多角的な視点からの匠の技の可視化やAL指導用ルーブリックの更なる改善**について取り組む

- 2
- ✓ 様々な生徒指導上の課題は早期発見・早期対応が不可欠であるが、**教師や保護者などの気付きや観察だけでは限界がある**
  - ✓ 不登校が子供達の学力面・情意面にどのような影響を及ぼしているか、客観的に把握する必要

### 生徒指導を科学する

- 教育総合データベースにより、子供達の**不登校等のSOSの早期発見・対応**を試行することで、**積極的な生徒指導を補強**
- 専門家による不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」において、本市の**不登校対策・支援に関する調査・研究・評価**を実施

- 3
- ✓ 子供の社会経済的背景等の困難を考慮した学級・学校単位での学力等の伸び、**学校の理解度や信頼度などを可視化・定量化する必要**
  - ✓ 教師にとってのAL指導用ルーブリックのような、学校管理職にとって学校経営を自己・他者評価するような視点が必要

### 学級・学校経営を科学する

- 教育総合データベースの「学校カルテ」機能や学校訪問におけるデータの利活用等を通じて、**学級・学校経営を科学する取組を推進**
- アセスメント・ファシリテーション能力を含めた**学校経営の視点を示したルーブリックの作成について検討**

# 戸田市SEEPプロジェクト

～産官学と連携した教育改革の重点～

SEEPとは、Subject、EdTech、EBPM、PBL、の4文字のアクロニムであり、  
「浸透する」の意味 → 薫習



**S**ubject  
(教科教育)

子供たちにこれからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を身に付けさせるために、教科の本質を捉えた授業改善を目指す。



**E**BPM  
(Evidence-Based Policy Making)

体制  
学校 各部署  
EBPM 推進担当 チーム  
(教育行政プロ 採用職員等)  
データ・サイエンス  
教育政策シンクタンク  
アトラスレポート  
教育政策シンクタンク  
教育工学 社会学 etc.

教育政策シンクタンクを中心に教育の定量的データ及び定性的データの分析を行い、「経験と勘と気合」から脱却したエビデンスに基づく政策立案を行う。



**E**dTech  
(Education × Technology)

「指導と管理」のPCから「学びと愛用」のPCとしたICTのマストアイテム化をはじめ、教育とテクノロジーの融合による新たな学びを推進する。



**P**BL  
(Project-Based Learning)

社会に開かれた「誰かの何かの課題」を解決する活動を通して、子供たちの未来を切り開く探究者としての資質・能力の育成を目指す。



# エビデンスに基づく教育施策の推進 ～ 当初の問題意識 ～

- 警察の犯罪捜査では、従来は捜査員の**経験**に基づく**職人的な勘**を駆使して犯人を推定・浮上させ特定してきたが、近年は、より効率的で合理的な捜査等を推進するため、捜査員の**経験則**や**勘**だけでなく、物理・化学・医学・生物学など**科学的見地**に基づく**検証**や**捜査手法**が行われている
- **医師（教師）**が**血液検査等**（**多面的な学びの過程**や**結果**）を客観的データの一つとして参考にし、**専門的な診察（指導）**が行える仕組みづくりが必要
- とは言っても、教育におけるデータは、それが成果のある一部のみを定量化しているに過ぎないので、専門家である教師は、あくまでも参考値として解釈し指導を行うことが大切
- 教育の最前線は教室の授業である。教師の職務は専門性が高いからこそ、改善策は、日々の授業実践の中に、また、教師同士の密な議論（ピアレビュー）の中に存在する

# データ利活用についての思い

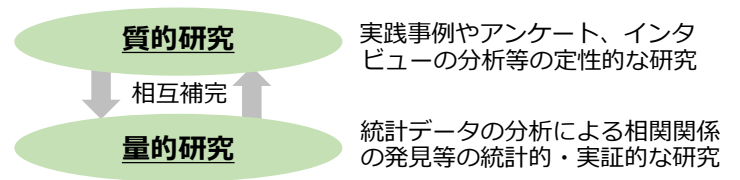
- 「経営者たる機長に、刻々と変わる機体の高度、速度、姿勢、方向を**正確かつ即時に示す**ことができなくてはならない。そのような計器盤がなければ、今どこを飛んでいるかわからないわけだから、まともな操縦などできるはずがない。」**稲盛和夫**
- データは「**21世紀の石油**」や「**21世紀はデータの世紀**」とも言われ、その利活用が国のあり方と発展に大きな影響を与え、**より豊かな社会の実現**や新たなイノベーションを生み出す可能性がある。ただし、**データを多く集めること自体には必ずしも価値はない**。データを**囲い込んだり**スコープと**組合せを限定**してしまうと、その利活用は止まってしまう。データを流通させ、多様な主体に様々な角度で分析してもらい利活用するかという、**データの戦略的オープン構造**への意識改革がカギとなる。
- 教育データの利活用により、**学力、いじめや不登校、発達障害、特別支援**など様々な**教育問題解決の一助**となる可能性がある。しかし、現状はともすると、**冷たい、評価の材料**に使われる、**情報漏洩**が心配、など**不安感や抵抗感の声も少なくない**。教育のデジタル化のミッションである「**誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会**」というミッションの実現に向けたユースケースを創出していきたい。
- ICTの利活用によって**学習履歴**を取るなど従来の評価が変わる。**データの可視化によってより深い評価が可能**になってくる。注意点として「取れるデータが豊かになっても、そのデータの向こうに**どういう認知過程があるのか、評価に関わる人**の間で丁寧な検討と**共通認識**を作っていく必要がある。

# 戸田市におけるEBPM (EIPP) の推進

## 戸田市におけるEBPM (EIPP) の考え方

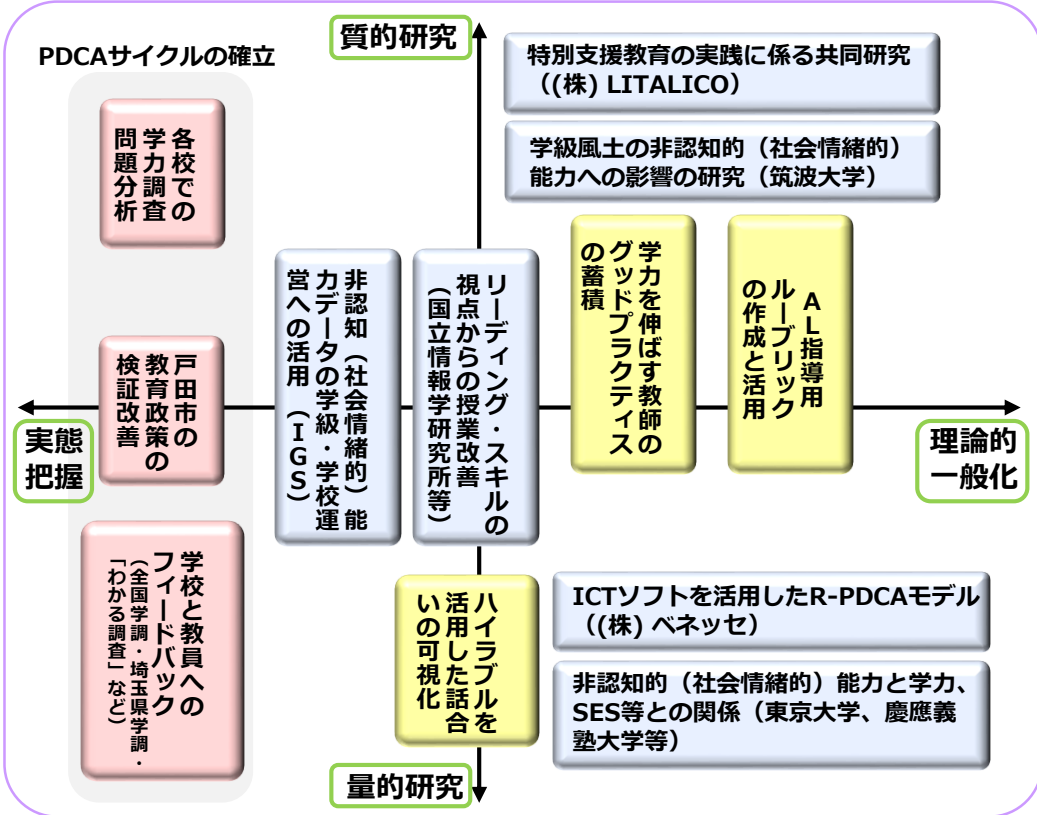
**目的**…「経験と勘と気合い」(3K)による教育実践や施策立案から脱却し、エビデンスに基づく効果的・効率的な教育改革を推進すること

**全体方針**  
…量的研究と質的研究の双方を重視し、目的に合わせ相互補完的に活用する



※「量的研究」と「質的研究」は戸田市における造語で、実証研究と非実証研究にほぼ該当するイメージである。

## 戸田市のEBPM (EIPP) 取組マップ



※横軸に研究の目的に関するアプローチ(実態把握と理論的一般化)、縦軸に手法に関するアプローチ(質的研究と量的研究)をとり、現行の取組を配置

## 3つの目的別アプローチ

- (1)実態把握**：調査結果等のデータを活用することで課題や実態を把握・分析し、PDCAサイクルにつなげる(→①)
- (2)理論的一般化**：実際の教育実践の事例を研究することで、優れた指導法等に関する知見の積み上げ(→②)や教育改革への新たな視点の発見(→③)につなげる

### ① PDCAサイクルの確立

教育委員会、学校、教師の3者それぞれについて、各種調査等に基づくフィードバックを行い、取組の成果や現状の立ち位置を把握することによって、課題発見と取組の改善につなげるPCDAサイクルを構築する。

教育委員会レベル	各施策について成果指標を定め、市全体に関するデータをもとに、教育施策の改善に役立てる。
学校レベル	各種調査の学校ごとのデータを学校にフィードバックし、学級経営や学校運営、学力向上策に役立てる。
教師レベル	埼玉県学力調査等によるクラス全体の伸びを教師にフィードバックし、日々の授業改善に役立てる。

### ② 授業改善に係る知見の一般化・規準化

授業改善等のための重要なポイントを一般化・規準化する。(言い換えれば、ベテラン教師の経験や優れた勘、匠の技(指導技術)などを可視化・言語化・定理化する。)これによる規準を教員の日常的な授業改善の参考にしたたり、授業の自己・他者評価のツールとして活用したりすることで、知見を見える化し、学校や世代を超えて積み上げる。

- (取組例)
- 「AL指導用ルーブリック」…アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善のため、6つの授業に対する延べ100人以上による評価表をベースに重点事項をまとめた指導用ルーブリックを本市独自に作成。これを研究授業や校内研修において活用。
  - グッドプラクティスの共有…県の学力調査のデータから、特に学力を伸ばしている教師を複数選出し、授業での心がけ等について聞き取り、ポイントを整理・共有。

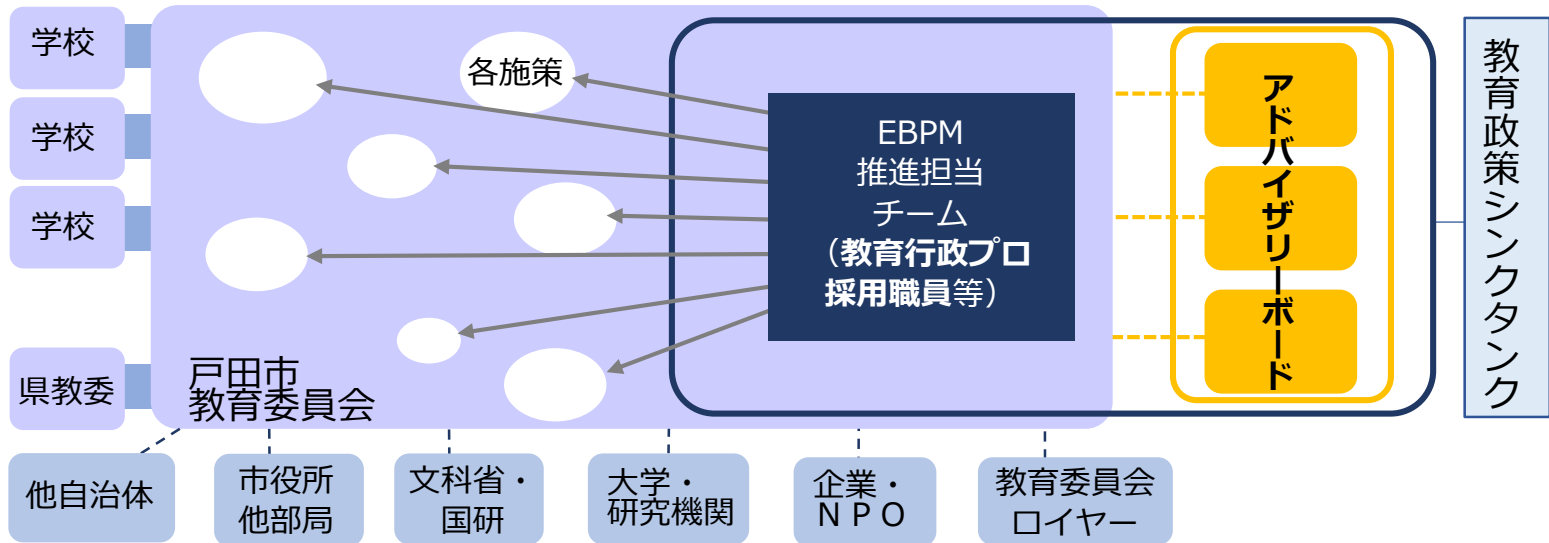
### ③ 教育改革の新たな視点の発見

非認知能力の学力への影響、アクティブ・ラーニングの有用性、リーダーシップ・スキルへの課題発見など、様々な共同研究の成果やそのプロセスにおいて発見された、今後の教育改革に対する新たな気づきをさらに掘り下げて、新たな研究材料とする。

- (取組例)
- リーダーシップ・スキルの視点からの授業改善…国立情報学研究所等のリーダーシップ・スキル・テストによる子供の読解力への課題発見を契機に、当該テストの視点を取り入れた授業改善の手法を各学校での実践に基づき研究。
  - 特別支援の視点からの授業改善…企業と連携し、ユニバーサルデザインに基づく学級経営とその成果検証を行うことによって今後の全体の授業改善に役立てる。

# 戸田市教育政策シンクタンク

子供たちが誰一人取り残されず、一人一人が21世紀を主体的に生き抜く力を身につけるため、**教室を科学**することを通じ、**優れた教師の匠の技の言語化・可視化・定量化**や**個別最適な学び**の実現、**EBPM (EIPP) の推進**に取り組む。



## 関係機関

市役所内他部局  
(健康福祉部、こども健やか部)  
他自治体  
大学  
企業等

## アドバイザーボード

認定NPO法人カタリバ代表理事・今村久美氏 (不登校支援)  
堺みくに法律事務所・小美野達之弁護士 (スクールコンプライアンス)  
渥美坂井法律事務所・三部裕幸弁護士 (個人情報保護)  
日本大学・末富芳教授 (教育行政学、教育財政学)  
東京大学・田中隆一教授 (経済学)  
上智大学・田村恭久教授 (教育工学)  
慶應義塾大学・中室牧子教授 (教育経済学)  
イェール大学・成田悠補助教授 (経済学・機械学習・人工知能)  
聖心女子大学・益川弘如教授 (学習科学)

※50音順で掲載

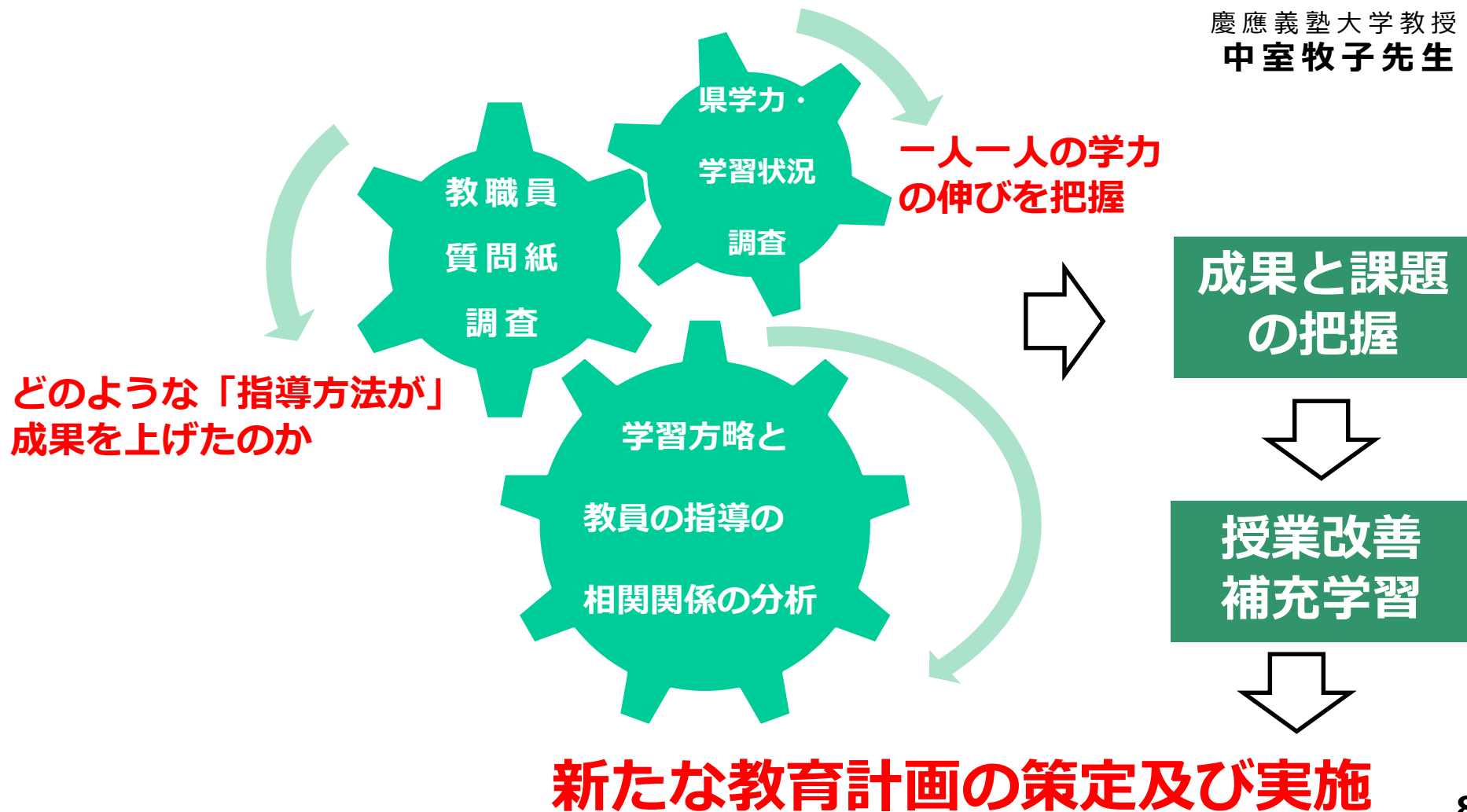


# エビデンスに基づく教育施策の推進

埼玉県学力・学習状況調査（IRT）等と教員質問紙調査等の  
分析結果の活用（慶應大学との連携）



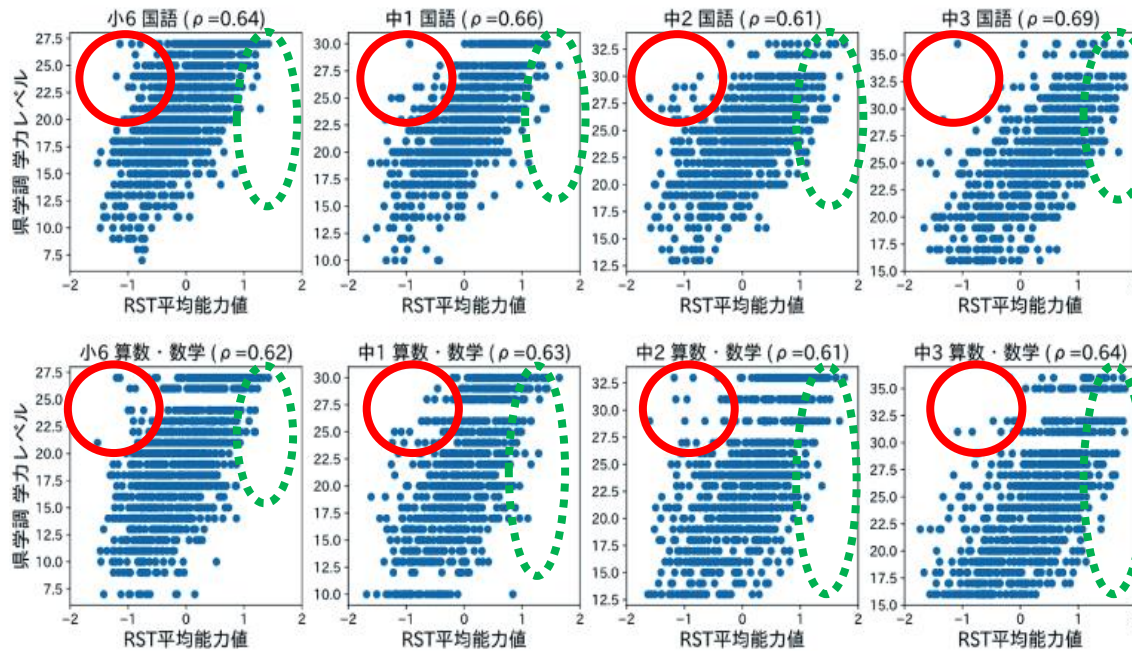
慶應義塾大学教授  
中室牧子先生



# リーディングスキルの育成・研究について

## (1) リーディングスキルテスト結果と埼玉県学調の相関分析

下図は、本年度のRST全受検者について、上記4タイプの読解能力値の平均値（横軸）と、令和元年度の埼玉県学調（国語および算数・数学）における36段階の学力レベル（縦軸）との関係を図示したものです。図中の $\rho$ は相関係数と呼ばれる統計値で、-1から1の範囲の値を取り、受検者の2つの特性（読解能力値と学力レベル）の関係が直線的である度合いを表します。全ての学年及び国語と算数・数学の両教科で相関係数は0.61~0.69の範囲であり、RSTと学力レベルには明らかな正の相関があることが分かります。



国語

算数・数学

○は、今後の学習でのつまづきが心配される児童生徒  
 ◌は、RSの能力値が高い生徒は中3後期（入試時期）の一般的なテストの伸びも高い。

一とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を—  
 平成30年度  
**戸田市教育研究集録**  
 戸田市教育フェスティバル開催

一とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を—  
 令和元年度  
**戸田市教育研究集録**  
 戸田市教育フェスティバル開催

一とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を—  
 令和2年度  
**戸田市教育研究集録**  
 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して  
 中央教育審議会委員のお二人より御意見をいただきました。  
 「令和の日本型学校教育」（個別指導学習と協働的な学び）がめざすところ  
 大友 真由子 先生

一とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を—  
 令和3年度  
**戸田市教育研究集録**  
 戸田市教育フェスティバル開催 オンライン開催  
 令和3年1月10日(火)、戸田市立教育センターにて「戸田市教育フェスティバル」を開催し、学校の教員がWEB会議システムによるリアルタイム配信を視聴する新しい形式で開催を行いました。今年度は、「こどもを育てる学校をつくるために」をテーマに、独立行政法人 教員支援機構から  
 講師テーマ— メディアリテラシー教育の本質とは何か 渡辺直樹  
 スピーチ— 小澤 真由子 先生

一とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を—  
 令和4年度  
**戸田市教育研究集録**  
 戸田市教育フェスティバル開催 オンライン開催  
 令和4年1月10日(火)、「令和型教育フェスティバル」を開催し、学校の教員がオンライン会議システムによるリアルタイム配信を視聴する新しい形式で開催しました。  
 講師テーマ— メディアリテラシー教育の本質とは何か 渡辺直樹  
 スピーチ— 小澤 真由子 先生

戸田市教育委員会



# アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

## 1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できたか。
- 本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)

## 2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、(主につまりずいている児童生徒たちへの)支援方法を準備し、支援することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、教具の工夫、適切な時間や場の設定等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の実現につながっていたか。

## 3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できたか。
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具(具体物・ICT等)を工夫用いていたか。
- 目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化(板書・ICT等)できたか。

## 4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【深い学びの視点】

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する(板書・ICT等)できたか。

## 5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、 学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する(キャッチ&レスポンスする)ことができたか。
- 目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。

- 教材研究を充実させ、子供たちに**育成したい資質・能力を明確**にして、視点1や視点5を基に子供たちに提示することが大切である。(コンテンツベースからコンピテンシーベースへ)
- その上で、視点4に示す**各教科等の特質に応じた見方・考え方を子供たちが働かせる**ことができる学習活動を充実させていく必要がある。(子供を主語にした学びの推進)
- また、学習活動の充実には自分の考えを表現したり、他者と自分の考えを比べたりするなど、視点2、視点3が欠かせない。こうした授業改善の取組をととして、「**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実**」を推進していくことが必要である。
- 教材研究を進めるにあたり、学習指導要領解説編や関係資料等を参照し、本単元や本時の位置付けを確認することも、大切なことである。(授業を「点」ではなく「線」「面」として捉える)



R4学校証明での達成状況

# 子供を主語にした学びの実現に向けた授業改善のポイント

## エビデンスに基づくグッドプラクティスの視点から



子供の学力を伸ばした先生に共通する授業(目指したい授業像)  
**一人一人の子供を主語にした学びの実現**

## 2

### 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現

#### 指導・支援のポイント

- ・全体場面や机間指導等を通して子供の学びの状況把握、適切な声かけ、考えの価値付けや評価。
- ・個で考える時間や協働的に考える時間の意図的な設定。
- ・ICTを活用した個別最適な学び(AIドリル学習、音声教材や学習者用デジタル教科書等の活用)や、協働的な学び(学び合いや意見交換、考えの共有等)の推進。
- ・戸田市版SAMRモデル「M」段階の活用。



## 1

### 基盤となる教育環境



学習活動の土台となる学年・学級経営

#### 指導・支援のポイント

- ・D & I<sup>®</sup>を学年・学級の中で実現し、一人一人が受け入れられ、安心して学ぶことができる学級づくり。
- ・ユニバーサルデザインの視点に沿った授業づくりや教室環境づくり<sup>①②</sup>

※1: D & I (ダイバーシティ・インクルージョン) 多様性と包摂  
※2: 多様性と包摂の実践の推進(全国実証プロジェクト)のユニバーサルデザイン50のチェックポイント



子供が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる学習活動の推進

#### 指導・支援のポイント

- ・子供に育成したい資質・能力、働かせたい見方・考え方を明確にする。
- ・授業を単元や題材のまとまりで構想。
- ・単元や本時の学びの明確なゴール設定の提示。
- ・課題とまとめの正対。(指導と評価の一体化)



## RST(リーディングスキルテスト)を活用した授業改善の視点から



主体的・対話的で深い学びの実現に向けては、児童生徒の汎用的読解力を育成していくことが重要となります。RSTを活用した以下の3つの視点から授業改善を進めましょう。

### 視点1 児童生徒の実態把握

RSTで示される6観点

- ① 誤り受け解
- ② 照応解決
- ③ 同義文判定
- ④ 推論
- ⑤ イメージ同定
- ⑥ 具体例同定

RST能力値: 小6~社会人での比較

RST偏差値: 同じ校種での比較

RSTは観点ごとに左の2種類の値によって、結果が示される。各児童生徒の結果をもとに、特に支援が必要な児童生徒の発見につなげたり、値の低い項目に基づく支援方法の検討や発問の仕方の工夫につなげたりすることで個別最適な学びへとつながる。

### 視点2 児童生徒への指導・支援

STEP1 RSTの視点を生かした理解の深め方を児童生徒に指導する

STEP1として、教師が教材研究の中で、児童生徒がつまりずそうな言葉を分析し、左のような活動につなげます。言葉を正しく理解することを児童生徒に意識させることで、児童生徒自身でも主体的に意味を調べたり、言葉と言葉や言葉と図表などのつながりについて考えたりする習慣が身に付く。

STEP2 RSTの視点を生かした支援によって児童生徒の理解を深める

STEP2として、対話的な学びの中で、既習事項から予想する「推論」や定義や学習内容の具体例を考える「具体例同定」、二つのものが同じ意味か考える「同義文判定」といった視点から考える機会を設ける。誤った理解や理解が不足している点がないか児童生徒自身で考え、気付くことで、理解が深まる。

### 視点3 児童生徒の振り返り等を分析

児童生徒が既習事項を正しく言葉で表現できているかを確認。状況に応じて、授業で補正したり、考えさせる機会を設ける。

「よく分かりました。」「がんばりました。」「すごいと思いました。」だけの振り返りにならないように、児童生徒が具体的な数値や文章、理由を明らかにしながら、振り返りを行うようとする。教師は振り返りを分析し、児童生徒の学習状況を把握し、次の授業につなげる。



# アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックの活用状況

令和4年度学校訪問後の自己評価において、「できた」「まあできた」と回答した教師の割合（％）

		小学校	中学校	小・中学校	
1	【目指すべき目標・評価規準の設定等】 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。	指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。	87	77	82
		本時の目標が達成できているか評価できるような評価規準を設定できたか。	78	74	76
		子供の学習意欲を高められるような導入場面を設定することができたか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）	85	86	86
2	【主に主体的な学びの視点】 子供が自分の考えを表現することができていたか。	本時の課題を児童生徒へ正しく伝えることができたか。	88	76	82
		自分の考えを表現することができるように、（主につまづいている児童生徒への）支援方法を準備し、実行することができたか。	76	85	81
		児童生徒が自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。	79	80	80
		学習活動が、目標の達成につながっていた。	83	85	84
3	【主に対話的な学びの視点】 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。	児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）を設定できたか。	81	83	82
		児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具（タブレット・P C・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていた。	90	77	84
		児童生徒の考えを可視化（板書・ICT等を使ってしめすこと）ができたか。	83	77	80
4	【深い学びの視点】 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。	児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であった。	77	81	79
		児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することができたか。	77	76	77
		児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことができたか。	73	76	75
5	【学びの評価・振り返り】 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。	評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する（キャッチ&レスポンス）ことができたか。	73	71	72
		評価するための方法や場面を設定することができたか。	70	64	67
		児童生徒が本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。	71	77	74

## ＜学校訪問時＞

授業者による自己評価

指導主事からフィードバック

授業者による再自己評価

小学校において、タブレットの活用を前提とした授業がデザインされ、子供たちも適切に活用する場面が多く見られた。

視点1の「目指すべき目標」とともに、授業の根幹と捉えるものである。指導の改善や学習意欲の向上を図るためにも、今後重点的な指導・支援が必要である。



# 教員質問紙調査結果と授業実践との関連性考察

- 本市が独自に毎年行っている教員質問紙調査では、1年間の自分の授業を振り返って、アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックの項目について、どの程度実践したかを5件法で回答。

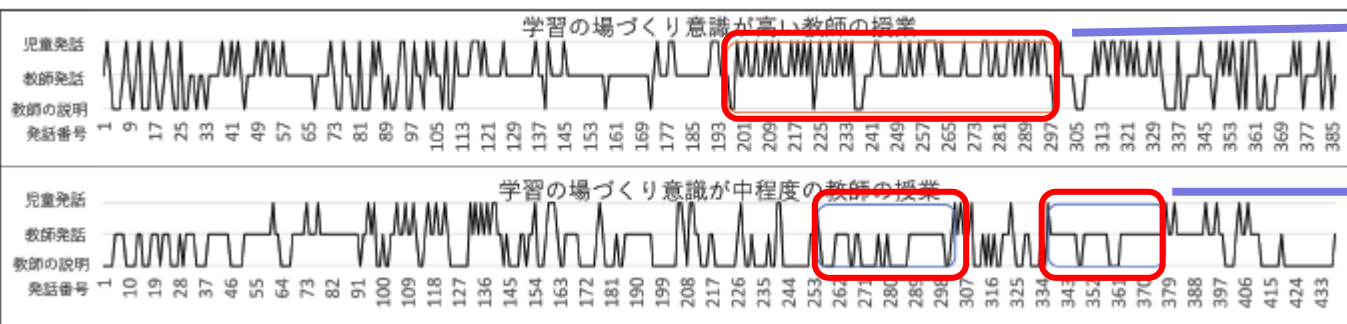
回答を分析したところ、「目標設定」「学習評価」「見方・考え方支援」「習得支援」「学習の場づくり」の5つの因子に分類できた。「学習の場づくり」には**国語や算数の学力と正の相関**が見られたため、その項目に着目して、中程度の教師と高い教師の算数の授業実践について、発話分析を行った。

発話をカウントし、  
発言者や内容で分類。  
時系列の推移を見た。

表1 学習の場づくりに関する項目

1. 子供たちに自ら解決の方法を考えさせ、見通しを持たせる場面を設けた
2. 子供たちが自分の考えを表現することができるように、支援方法を準備し実行した
3. 子供たちが自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備をした
4. 授業の目標に応じ、子供たちの考えを広げ深められるような学習形態（個人、ペア、グループ、全体）を設定した
5. 授業の目標に応じ、子供たちの考えを広げ深められるような教具（タブレットPC、ホワイトボード、ワークシート、具体物等）を用いた
6. 教科の学習内容について、子供同士での学び合いを促した

図1 学習の場づくり意識と授業発話の推移



子供との  
交互の発話が見られた。

説明が多く、  
子供の発話  
あまり見られなかった。

# 匠の技の可視化について

匠の技 = 優れた教師の指導技術

▶ 経験や感覚に基づく属人的なスキル

## 現状と課題

若手の**大量採用**

ベテランの**大量退職**

伝承や普及が困難に...

減らぬ業務量により困難な**研修時間の確保**

## 解決の方向性

経験・勘・気合からの脱却を目指し

優れた教職員の技術を**可視化**、**定量化**し、**調査・分析・研究**

他の教職員へ効果的な伝承

子どもたちの学びの質の向上

# 匠の技の可視化に係るこれまでの実証研究

- 対面の話し合いをたまご型レコーダー（ハイラブル社）で録音し、客観的なデータを基に話し合いを可視化。
- 教師のどのような声かけや発問が児童生徒の学びに影響を与えているのかについて検証。

令和3年度 市内5校

令和4年度 市内2校

令和5年度 市内2校

【検証1】 児童生徒の学習時の発話量の時間変化より



上グラフによると、教師の精選した意図的な発問によって、話し合い活動において児童生徒の発話量が増える傾向が見られた。特に、以下のような発問の際に高い数値となった。

\*〇〇さんは、なぜたし算をしたのかな（つなげる）

\*〇〇さんは、何に着目したのかな（深める）

※R3指導の重点・主な施策p4③発問による授業づくり参照

また、教科の特質に応じた見方・考え方を児童生徒が働かせている様子も見られた。発話量からも主体的に話し合いが行われている結果が見られた。

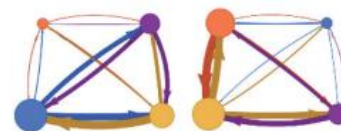
【検証2】 話し合いデータを児童生徒が活用した取組より

児童生徒が自分たちの話し合いをデータに基づき客観的に把握する時間を授業内で意図的に設定し、教師による中間指導も含め、グループ内の関わり合いや発話量について確認をするようにした。

そうすることでその後の話し合いの見通しがもてるようになり、多くのグループで前半の話し合いより主体的に関わろうとする様子が見られ、行動の傾向分析からもその変化を見ることができた。



【検証3】 発話の関わり合い（ターンテイクより）



多くの授業において、話し合いのグループが4～5人で編成されていたが、ターンテイクを見てみると、グループの多くで、上データのように主体的に話し合いに参加できないメンバーが必ず1名以上存在することが分かった。3人グループの際には、比較的関わり合いのバランスがよく、個人的な発話量、重なり度、盛り上げ度についても伸びが見られる結果となった。

# 匠の技の可視化の更なる推進に向けて

- R5.10月～ R6.3月 未来の学びの実現に向けてクラウドファンディングを実施
- R6.7月～ 以下の観点から、授業中における”こどもたちの発話”と”教師の指導”との関係をより深く詳細に分析
  - 可視化・定量化
  - データ分析
  - 考察
- R7.4月～ 成果まとめ  
子どもの学びに影響を与える優れた教師の”技”を解明

目標額：約300万円

データ収集等に係る機材調達費  
データ分析等に係る経費など



クラウドファンディング実施中！御寄附はこちら

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/2634>

## ①発話量（発話時間）と学びとの関係の分析

例）児童生徒の発話量が多いほど（発話時間が長いほど）、学力や非認知的（社会情緒的）スキルにより影響があるのではないか。

## ②児童生徒の話合いと教師の指導との関係の分析

例）児童生徒の話合いが活発化した場合、教師の声かけ等がきっかけとなっている場合があるのではないか。

例）児童生徒の話合いの活発さは、教師の学級経営の在り方を示す県学調の質問紙項目との相関関係が見られるのではないか。



# 「授業がわかる調査」 (授業に対する感じ方) を分析

戸田市では平成16年度から「授業がわかりますか」「授業が楽しいですか」という子供に対するアンケート調査を行っており、授業改善に活用。令和3年度は戸田市における各学年、各教科の傾向を分析した。

## 主な結果①

全体的に「わかる」よりも「楽しい」の方が、学級による違いが大きい。(特に小学校)

表3「わかる」の分散指標 (※3)

	教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.26	0.25	0.93	0.71	0.41	
小5	0.35	0.75	0.98	0.87	1.11	
小6	0.29	0.39	0.57	0.51	0.82	
中1	0.35	0.36	0.85	1.56	1.62	0.97
中2	0.63	0.77	1.97	0.95	1.75	1.25
中3	0.49	0.58	0.77	0.78	1.24	1.02

表4「楽しい」の分散指標

	教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.67	0.89	2.33	1.32	0.88	
小5	0.94	1.73	2.67	2.60	2.31	
小6	1.44	2.51	1.52	1.70	2.56	
中1	0.47	1.05	0.98	2.80	1.93	1.04
中2	0.77	1.17	2.41	1.93	3.10	1.32
中3	1.13	1.29	2.09	1.77	2.00	1.81

## 考察

理解することも大事だが子供達が何を楽しいと感じるかに留意しつつ、教科の本質的な楽しさをいかに伝えられるかに腐心すべき。

分散指標は分散の値に10を乗じたもの。数字が大きいほど学級間のばらつきが大きい。

## 主な結果②

「わかる」と「楽しい」の関係性は、高校受検が近づくと弱くなる傾向。(特に国語・社会・数学)

表5「わかる」と「楽しい」の相関係数 (※4)

	教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.63	0.55	0.76	0.59	0.49	
小5	0.73	0.61	0.85	0.74	0.88	
小6	0.71	0.66	0.53	0.56	0.69	
中1	0.60	0.53	0.72	0.72	0.72	0.54
中2	0.76	0.53	0.71	0.14	0.86	0.60
中3	0.58	0.34	0.47	0.28	0.75	0.63

## 考察

わかるけど楽しくないと感じる子供が多くなる。子供が主体となり、学習内容を探究したりアウトプットしたりすることが重要。

16

学年や教科によって授業に対する感じ方の傾向が異なるため、その傾向に応じて授業改善を進める必要がある。

相関係数は「わかる」と「楽しい」の関係性の強さ。およその目安として、0.8以上で強い相関、0.7~0.8でやや強い相関、0.5~0.7で弱い相関があるといえる。

# コンピテンシーと学力の関係分析

## ➤ コンピテンシーを測定するAi GROWと学力との相関分析。

### 学力とコンピテンシーの関係

全体的に正の相関がありました（学力が高いとコンピテンシーも高い）。特に、小学校では論理的思考、中学校では論理的思考、課題設定、疑う力、表現力でその傾向が強く、これらのコンピテンシーは学力向上のための授業改善に位置付けると効果的と考えられます。一方、その他のコンピテンシーを向上させるには学校の取組や学級経営等に意図的に位置付けることがより重要となります。

	創造性	論理的思考	個人的実行力	自己効力	共感・傾聴力	決断力	疑う力	課題設定	耐性	表現力	柔軟性	影響力の行使	地球市民
小_国語	0.399	<b>0.478</b>	0.389	0.360	0.372	0.353							
小_算数	0.373	<b>0.429</b>	0.368	0.354	0.324	0.332							
中_国語	0.373	<b>0.488</b>	0.382	0.335	0.364	0.385	<b>0.443</b>	<b>0.442</b>	0.277	<b>0.429</b>	0.385	0.334	0.385
中_数学	<b>0.408</b>	<b>0.515</b>	0.398	0.381	0.333	0.397	<b>0.450</b>	<b>0.454</b>	0.286	<b>0.464</b>	0.376	0.375	0.398
中_英語	0.387	<b>0.557</b>	<b>0.419</b>	0.377	0.383	<b>0.436</b>	<b>0.466</b>	<b>0.474</b>	0.309	<b>0.469</b>	<b>0.417</b>	0.372	0.410

（表中の数字は相関係数、赤字は比較的強い相関関係があったことを示す。学力は平成31年度埼玉県学調結果を利用）

### コンピテンシー向上に有効と考えられる取組

創造性	複数人、男女混合、多様性、単元ごとなど、グループ分けを意識して指導に取り入れる。心理的安全性を考え、同質性も考慮する。
自己効力	担任が毎日の帰りの会で1人ずつ、皆に見えていないところを褒める。「先生は常に見てくれている」という安心感と代理成功体験につながる。
共感・傾聴力	男女間の心理的安全性が確保された状態でグループ活動を行い、意見を否定せず褒め合う。教員役や1年生役など、相手の立場になり切る活動も有効である。

コンピテンシーが向上したクラスの担任の先生方に、日常の実践についてヒアリングを行いました。その結果を以下の表に示します。

論理的思考	市のプログラムや思考ツール、ICTを活用し、結論を導いた理由付けやプレゼンテーションを行う。
個人的実行力 決断力	新しいイベントの立ち上げや学年縦割り活動のリーダーなど、経験したことのない役割を一人一人主体的に行う。



# 教科教育深化プラン

- ・PBLが各校において推進されている今こそ、**SEEPプロジェクトの原点である「Subject（教科教育）」を深化**させ、それらを車の両輪として子供達の学びを充実していく必要。
- ・そのために、**教師間の同僚性**を高めつつ、共通的な基盤である**授業づくりの視点**と、教科の学びに夢中になるような、各教科固有の**「見方・考え方」を働かせる視点**の双方を強化していく。




★文科省「教員研修高度化モデル事業」を活用

## 3本の矢からなる「教科教育深化プラン」



### ① 共通的な基盤である授業づくりの視点の浸透

- 「アクティブラーニング指導用ルーブリック」の更なる改善 
- RST（リーディング・スキル・テスト）の視点と、ユニバーサルデザインやICTの視点も組み合わせた、子供達をつまづきに対応した授業改善を全校で実施 
- 「学級経営ルーブリック」（仮称）の策定検討

### ② 教師間の学び合いの場の拡充

- 各中学校区で小中の教師がお互いに授業を見合う機会を促進 
- 夏季専門研修で、指導主事が教科指導の悩みを教師から聞いたり、教科の魅力に熱く語る機会を設定（選択必修参加） 
- ★教科等研究部会での大学等から講師を呼んでの授業研究を支援 
- ★センター研究員制度について、参加者の拡大と運営の活性化

### ③ 教育委員会によるサポート体制の充実

- 各教科の、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を授業と紐付けて提示 
- ★モデル校4校における、大学・民間と連携した校内研修・授業研究等の高度化への支援
- ★大学と連携した算数・数学、体育の研修の充実 
- 学校経営アドバイザーによる訪問の充実

子供達の学びと教師達の学びは「相似形」  
教師にも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を！



# データ活用による授業改善の進め方

## 1 データ活用の考え方

学習指導要領総則の解説には「各学校においては、各種調査結果やデータ等を活用して、児童生徒や学校、地域の実態を定期的に把握し、そうした結果等から教育の目的や目標の実現状況や教育課程の実施状況を確認し分析して課題となる事項を見だし、改善方針を立案して実施していくことが求められる。」と示されている。一見するとデータ活用は「学校として取り組むもの」と思われるかもしれないが、個々の教師の活動の積み重ねが学校の教育課程であること、データ活用が授業改善の一側面であることを考えると、データの利活用は教育活動をより良くするための普遍的・日常的でポジティブな営みであるといえる。

これらを踏まえて、日々の活動に以下のような実践例を各学級で取り入れることで、様々な視点で子供たちを見取り、子供たちの思いを反映させられるような授業改善を進めていくことが望ましい。

子供たちの変容のために現状を定量的に把握することからスタートし、

R-PDCAサイクルを適切に回すことで**学習指導等の在り方を変えていく**ことが重要。

**R** 現状の把握・分析・共有 → **P** 目標設定・課題の共有 → **D** 実施 → **C** 評価

必要に応じて補足調査

## 2 データ活用の実践例とポイント

(例) 授業の理解度や教科への興味関心を高めたい → **R** で「授業がわかる調査の項目」を流用

**R** 授業がわかりますか？ (理解度)  
授業が楽しいですか？ (興味関心) を開く  
(Google フォーム活用で短時間で可能となる)

※特定の教科のみでもよい。(例: 社会のみ、理科のみ)  
※五件法 (5つの選択肢から選否) が分析しやすい  
※市では肯定的な回答の割合の和を指標としている。  
(理解度なら「よくわかる」と「だいたいわかる」の和)  
※必要に応じて理由を一緒に回答させる。

**結果例**

<b>パターン①</b> 興味関心は高いが理解度が低かった	<b>パターン②</b> 理解度は高いが興味関心が低かった
----------------------------------	----------------------------------

**Point:** 計画や目標を立てるには、R (Research) により子供たちの現状を可能な限り把握しておくことが大切。

**P** 結果の理由や背景を分析し、解決策やその目標を設定する。

<b>パターン①</b> 例えば、分析の観点に過去の「指導の重点・主な施策」のグッドプラクティスを用いる。特に自分で実践できていないポイントがあれば、次の単元や次の学期では必ず毎回の授業でそのポイントを実践するといった目標を設定する。	<b>パターン②</b> 学習内容の意義を伝えられているか、子供との関係性を構築できていくか、子供は安心して授業に臨んでいるかなど、「楽しさ」を様々な子供の視点に立って検討する。そこから自分で仮説を立て、仮説に応じた具体的な解決策を設定する。
--	--

**Point:** 解決策はできるだけ具体的に、期間 (この例の場合は単元ごとや学期ごと) も含めて設定する。

**D** 設定した解決策を実施する。 **C** 設定期間終了後に同じ質問を行い、解決策の効果を検証、必要に応じて補足的な調査を行う。 **A** 次のサイクルを回す。

**Point:** 数値は参考にすが、**子供の見取りを大事**にする。そして設定した指標の観点で**自分の行動を振り返り、行動改善できたかが重要**である。

**R** の別の視点  
自分の授業実践を振り返りたい  
→ **R** で「埼玉県学調の質問紙項目」を流用

質問例: ○学期の◇◇(教科)の授業で次のようなことはどれくらいありましたか?  
■授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと  
■授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと

**Point:** 指導実践に対する認識は、教師と子供の間でギャップが生じやすい。上記の質問はそれぞれA-L 指導用ルーブリックにおいて授業の根幹としている視点1と視点5に関するもので、授業の見直しと振り返りを実践できているか**子供の視点で確認**できる。

Researchの入口

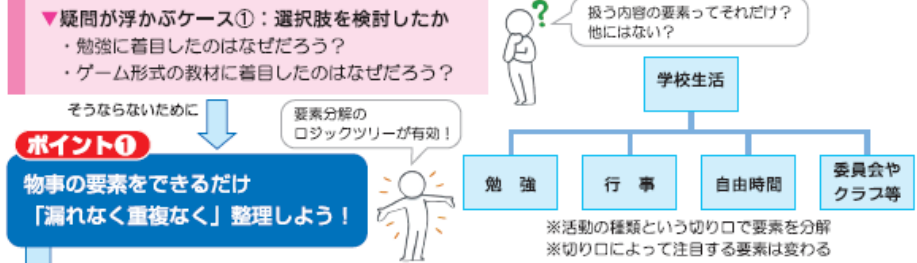
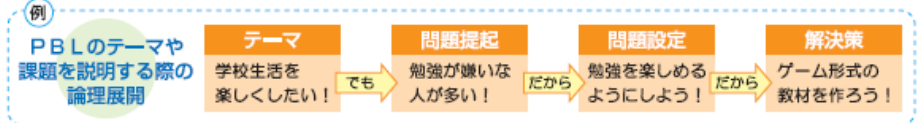


児童生徒向けのアンケート (Google フォーム) を Google ドライブ上に保存

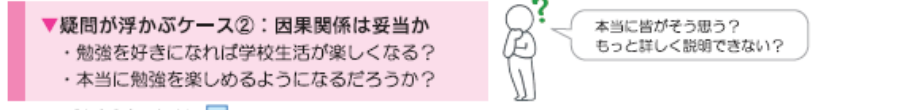
# データ活用の土台として必要な論理的思考について

人に何かを伝えるときや問題や課題について分析するときに、データを活用することは説得力を高めるために非常に有用である。ただし、単にデータを用いれば説得力が増すわけではなく、土台となる論理がしっかりしていなければ効果が半減してしまう。

効果的なデータの活用に向けた基礎的な論理的思考を取り入れていくことが重要である。



例えば、「勉強が嫌いな人の割合が多い」というデータを提示するよりも、要素分解した項目も含めた「他の活動と比べて、勉強が楽しいと答える人の割合が低い」という**網羅的なデータ**を利用する方が、論理の展開について納得する人が増える。



例えば、「勉強が苦手な理由や勉強をしていて楽しいと思う瞬間」などをアンケートで聞いてみたり、「どのような勉強方法があって、皆はどの方法に興味を持つか」を調査してみたり、**因果関係を補強する形でデータ**を利用すると、論理の展開について納得する人が増える。

相手に何か伝えるときは「自分が分かるから相手も分かるはず」ではなく「誰が聞いても分かるだろうか」という姿勢 (前提や立場の違いを意識) で内容を見直す。論理展開がしっかりしてこそ、データ活用の効果が生きてくる。



# 学校現場に伝えているデータ利活用の視点

- 1. 目的**：目的を持ってデータを収集・活用する。**目的のないデータ収集は無意味。**
  - どんな仮説を持って、どんな成果・課題を明らかにしたいか？「問題に直面する方法は問題を特定すること。問題を特定する方法はデータを分析すること。」
  - 課題を指摘するだけでなく、「褒める」ためにデータを活用する視点も重要。
- 2. 範囲**：データとは、**学調のテスト結果だけではない。**
  - アンケート結果から教師のコメントまで、様々な量的・質的データが存在。
- 3. 粒度**：静的な平均値だけでなく、**様々な粒度に分解**することでより有意義に。
  - 一地点だけではなく、一定期間後の数値の推移をみる。
  - 児童生徒平均ではなく、一定のカテゴリの集団ごとに分類して比較する。
- 4. 鮮度**：「数ヶ月後に返ってきたテスト結果は、子供達の今の姿を反映していない」
  - データの頻度のみならず、**データの収集→分析のサイクルを早く回す**ことが必要。
- 5. 文化**：学校経営を科学することなしに、授業を科学することは困難。
  - データ利活用の文化醸成には**各学校におけるキーパーソン**が必要。

# 学校発のデータ利活用の取組

特別でない特別支援教育、個別最適な支援を実現したい、そのために、子供達の状況をより詳しく客観的に確認できるよう、**教育データを積極的に利活用**する必要がある。

【市内の小学校の取組】

## 05. 学びの改革

### RTI (Response to Intervention)

- 教育データの利活用
- RTIミーティング
- 1層支援の検証・改善（全体）
- 2・3層支援（少人数・個別）

児童が指導や支援に対してどれだけ反応したかを測定し、その結果を根拠として追加の支援や指導法の見直しをスピード感をもって行っていくシステム



# 第4次戸田市教育振興計画の進捗状況①

モニタリング指標名	該当所属	令和2年度	令和3年度	令和4年度
<b>■主に方針1（子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現）に関するもの</b>				
全国学力・学習状況調査における平均正答率	教育政策室	実施なし (新型コロナの影響)	<b>小学校6年生</b> 国語66% (64.7%) 算数71% (70.2%) <b>中学校3年生</b> 国語65% (64.6%) 数学58% (57.2%)	<b>小学校6年生</b> 国語68% (65.6%) 算数65% (63.2%) 理科64% (63.3%) <b>中学校3年生</b> 国語71% (69.0%) 数学55% (51.4%) 理科50% (49.3%)
埼玉県学力・学習状況調査において学力を伸ばした児童生徒の割合	教育政策室	<b>小学校6年生</b> 国語80%以上 算数50%以上60%未満 <b>中学校3年生</b> 国語70%以上80%未満 数学60%以上70%未満 英語70%以上80%未満	<b>小学校6年生</b> 国語70%以上80%未満 算数70%以上80%未満 <b>中学校3年生</b> 国語70%以上80%未満 数学70%以上80%未満 英語80%以上	<b>小学校6年生</b> 国語70%以上80%未満 算数60%以上70%未満 <b>中学校3年生</b> 国語60%以上70%未満 数学60%以上70%未満 英語80%以上
授業の内容がわかる児童生徒の割合	教育政策室	小学校（4教科）85% 中学校（5教科）77%	小学校（4教科）84.8% 中学校（5教科）77.6%	小学校（4教科）83.2% 中学校（5教科）76.3%
中学校卒業時の英検3級以上取得率	教育政策室	57.8%	56.4%	58.5%
教職員の在校等時間の状況	学務課	小学校：約37時間／月 中学校：約42時間／月	小学校：約36時間／月 中学校：約56時間／月	小学校：約29時間／月 中学校：約39時間／月
授業支援システムの活用ログ（※）	教育総務課	3,549名	9,870名	9,946名
地場食材の活用や食育の取組状況	学校給食課	じゃがいも279kg たまねぎ300kg はちみつ9kg	じゃがいも200kg はちみつ9kg	じゃがいも227kg たまねぎ173kg はちみつ6.3kg

（※）1日あたりの、学習者用端末と紐付いているgoogleアカウントに、1回以上ログインした児童生徒の数

# 第4次戸田市教育振興計画の進捗状況②

モニタリング指標名	該当所属	令和2年度	令和3年度	令和4年度
<b>■主に方針2（多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残さない学びの保障）に関するもの</b>				
障害福祉に係る相談窓口の相談件数	障害福祉課	37,874件	35,535件	33,438件
不登校児童生徒の教育機会の確保状況	教育政策室	すてっぷ 31名 その他 6名	すてっぷ 39名 その他 12名	すてっぷ 62名 いっぽ 10名 room-K 7名 ぱれっと 101名 その他 17名
民間事業者と連携した学習機会の提供回数	教育政策室 （学校内を会場とするもの）	<b>小学校</b> 放課後に、3～6年生を対象に学習機会を提供（参加申込者数1,729名）。 <b>中学校</b> 夏季休業中と放課後に学習機会を提供（参加申込者数は夏季268名、放課後115名）	<b>小学校</b> 放課後に、3～6年生を対象に学習機会を提供（参加申込者数1,355名）。 <b>中学校</b> 夏季休業中と放課後に学習機会を提供（参加申込者数は夏季125名、放課後90名）	<b>小学校</b> 放課後に、3～6年生を対象に学習機会を提供（参加申込者数1,055名）。 <b>中学校</b> 夏季休業中と放課後に学習機会を提供（参加申込者数は夏季237名、放課後114名）
同上	教育政策室 （学校外を会場とするもの）	中学校3年生を対象に英検3級対策講座を開催した（参加申込者数185名）。	中学校3年生を対象に英検3級対策講座を開催した（参加申込者数154名）。	中学校3年生を対象に英検3級対策講座を開催した（参加申込者数118名）。
障害児相談支援利用者数	障害福祉課	444件	519件	612件
1歳8か月健診、3歳6か月健診の平均受診率	福祉保健センター	95.1% *1歳8か月健診 94.0% *3歳6か月健診 96.2%	93.5% *1歳8か月健診 94.4% *3歳6か月健診 92.5%	97.8% *1歳8か月健診 97.8% *3歳6か月健診 97.9%
子育て支援センター利用者数	保育幼稚園課	5,578件	5,111件	6,484件
こども家庭相談の状況	こども家庭支援室	13,194件	13,797件	14,820件



# 第4次戸田市教育振興計画の進捗状況③

モニタリング指標名	該当所属	令和2年度	令和3年度	令和4年度
<b>■主に方針3（地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供）に関するもの</b>				
生涯学習活動を行っている市民の割合	生涯学習課	40.5%	-	-
市民大学、公民館講座受講者数	生涯学習課	1,577名	3,143名	3,561名
国内外姉妹、友好都市との交流件数	協働推進課	3件	6件	8件
プロ選手・プロ芸術家と触れあえるイベント数	文化スポーツ課	1件	2件	4件
青少年の居場所の実施設数	児童青少年課	5施設	5施設	5施設
<b>■主に方針4（個別最適な学びの実現に向けたEBPMの推進）に関するもの</b>				
外部研究機関との共同研究の実施状況	教育政策室	令和2年度戸田市教育研究集録において、2件（3名）の外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載。	令和3年度戸田市教育研究集録において、1件（3名）の外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載。	令和4年度戸田市教育研究集録において、3件（7名）の外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載。

## 令和3年度以降、大きな進展のあった教育委員会の施策の例

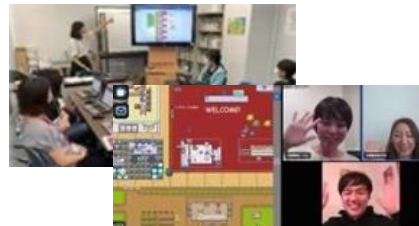
**ネットワーク等のICT環境の充実やICTを活用した授業改善**



**学校の働き方改革の推進**



**多様な学びの機会を提供による不登校支援**



**リカレント（学び直し）を含めた生涯学習の充実**



# 現在の取組から思う諸課題①

## ■データの在り方について

### 教育データの 目的



「学習等によって生じる教育データの活用の仕方」だけではなく、**何のために教育データを使うのか**、その「目的」や具体的な姿を多くの関係者と共有する必要がある。

### マクロデータの 活用



学力や学習に関するデータ以外の行政データ（家庭環境、健康・体力データ等）のさらなる活用を進めたい。  
**行政データは悉皆、経年のデータ**であり、**再生性が大きい**。一方で、部署間のデータ移動、電子化が進まないデータ等、運用上の障害も多い。

### 質的エビデンスと スモールデータ



教育的な営みの成立度合いなどを観察分析するには、**質的なエビデンス**や**スモールデータ**も重要である。  
また、現場にとって価値のあるデータ（例：情意領域の評価や教育的タクトの可視化）の見極めが必要で、そのデータを特定するためにはまだ基礎的な研究が必要。一方、現場への還元がすぐに見込めるデータのほうが、現場での研究を行いやすいというジレンマもある。

### 評価の在り方と エビデンスに基づく 授業デザイン



ICTの活用により学習データの取得が容易になり、評価指標が増えることも想定される中、**評価の在り方がどのように変化していくか検証**が必要。データの背景にどういう認知過程があるのか、評価者の共通認識を作っていく必要がある。それにより学びの見方が変わり、学習の本質に立ち戻った**科学的根拠に基づく授業デザイン**が見えてくる可能性がある。

⇒ Pedagogy First, Community Second, Technology Third 25

# 現在の取組から思う諸課題②

## ■ データ活用の体制について

データ活用の  
容易さ



教師や児童生徒が活用しやすくなるように、ダッシュボード等の工夫が必要。データ整備を進めるためには、**各教師や子供が自己のために活用でき、その有用性を感じられる**ことが必要。

データリテラシー  
の向上



教育委員会、学校、教師それぞれが様々な**データを正しく読み取れる**こと、その結果を主体的に教育活動に生かしていこうという意識をより浸透させることが必要。**現場から得られる気づきをEBPM（EIPP）に反映**したい。

データ  
ポータビリティ



本来、**学びの履歴は子供たちのもの**。  
本人（保護者）の判断で、塾等で再利用できる「**学びのお薬手帳**」としてデータを活用できる環境作りを進めたい。また、自治体間や産官学との連携を促進し、その教育効果を高めるために、**テーマコミュニティづくりや、教育のオープンデータ整備**を進める必要がある。**ブロックチェーン技術の活用**も一法。

データ活用人財  
の確保



**過去のものであるデータを、現在や未来に生かすために「解釈」し、策を講じることができる**、「データと現場のつなぎ役」が教育委員会に必要。



# 現在の取組から思う諸課題③

## 産学との連携について

教育意志や  
納得感の共有



全国各地で「自治体や学校」と「大学や企業」が連携し、互いの教育意志や納得感を共有しながら研究に取り組めるような組織や事業づくりが必要。特に、自治体はデータの宝庫だが、その分析・活用の知見が不足している。このため、大学の知見が不可欠だが、自治体としてはどこに支援をお願いすればよいかわからない。ぜひ**大学から自治体への積極的なアウトリーチ**をお願いしたい。

企業との協働



教育委員会や学校現場で学習履歴を活用したくても、企業側から提供してもらえない場合もある。データ整備の途上という状況もわかるが、どのようなデータの整備や活用を目指すのか、**企業と教育委員会が協働して検討**することがあってもよいのではないかと。

個人情報の扱い



EBPM (EIPP) に関連してデータの扱いを考えるうえでは、**個人情報の扱いは大きな課題**である。現在は個人情報保護法や市の条例等に則って対応しているが、取組のスピード感や柔軟性の面で制限となる場面もある。

# 戸田市教育委員会における教育DX (EduDX)

Digitization

電子化

Digitalization

最適化

Digital Transformation

新たな価値

標準モデルアプローチ（経験・勘による「属人知」）

個別最適モデルアプローチ（「集合知」の活用）

デジタル化で効率・効果的に（GIGAスクールによる一人一台端末整備など）



ICT・データ活用による指導・教育行政の改善・最適化（一人一台端末の効果的な活用によるデータのフル活用）



学習モデルの構造などが質的に変革し、新たな価値を創出



教師視点の校務のデジタル化 → 学習者視点のデータ活用に基づく個別最適な学びへ

## ■ 学びのDX ■

- 授業デザインの変革 -

- ・デジタル教材・学習コンテンツの活用
- ・オンライン・クラウドの活用、学校と学校外のシームレスな学び
- ・スタディ・ログの蓄積・分析・活用と匠の技の可視化
- ・情報モラルからデジタル・シティズンシップへ

## ■ 校務・教師のDX ■

- 当たり前の見直し-

- ・配布物、連絡、調査等のデジタル化、学校公式SNSによる情報発信
  - ・会議・研修のオンライン化
  - ・メディア・リテラシー研修等、教師のICTリテラシー向上に向けた研修
- ※ 今後は、システムのクラウド化等を目指す

## ■ 教育行政のDX ■

- 産官学との連携 -

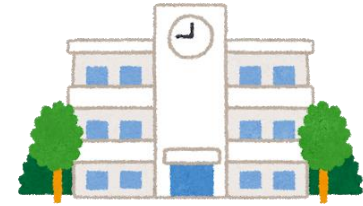
- ・産官学の知のリソースの活用（教育委員会機能強化と社会に開かれた教育行政）
- ・教育政策シンクタンクの設置及びアドバイザリーボード
- ・教育総合データベースの構築

# 教育委員会としての決意



戸田市教育委員会

令和の日本型学校教育の  
構築を目指して  
支援



学校

今後さらに検討を要する事項 (中教審答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」P.92)

- 校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化が図られ、自主的・自立的な取組を進める学校を積極的に支援し、**社会の変化に素早く的確に対応するための教育委員会の在り方**～略～社会との連携等を含む教育行政の推進体制の在り方

- 多様な人財を得て機能を最大化し、社会に開かれた教育行政を実現する**
- 定数を増やすのは厳しいので、教育委員会事務局組織の戦略的人事配置**
- 教育委員会と学校との距離感の縮小** (管理から支援へ)

- 本当に大切な教育改革は、国や教育委員会からではなく、学校現場から起こるべきである。そのために、教育委員会のマネジメントを「一律の管理」から「個別の支援」にシフトし、教育委員会は、「学校に伴走し、積極的な自走を支援し、逸走や暴走を軌道修正する」ところでなければならない。**

啐啄同時の教育委員会

# 参 考 資 料



# 教育村、学校村の意識改革（コンセプトの学校への浸透）

## （１）生徒指導と学級経営の充実

- 生徒指導の王道は学力向上にあり
- 学力向上は学級経営と授業の充実にあります

## （２）校長のリーダーシップの発揮

- 校長が「代（変）われば」学校が変わる
- 学校間ピアレビューで成果と課題の共有化を
- 挫折回復（resilience）能力
- 識時務者在俊傑

## （３）授業改善に向けて

- 「授業改善日」や「授業改善の時間」の計画的な設定
- 素人の目から見てもわかる授業改善を → ICT機器活用が最も効果的
- 例外を出さない授業改善
- 教師自身がパッシブラーナーからアクティブラーナーへ

## （４）社会に開かれた教育課程と学び合う職員室に

- 変化する社会の動きを教室の中に入れるため、産官学と連携した様々な学びや人財等の原材料を教育委員会で用意していく。授業改善、校内研修、研究発表などで躊躇なくフル活用してほしい
- 社会構造の変化を各学校で共通認識し、目の前の子供たちの実態を踏まえ、どのような力を育てるか、**学年や教科を横断して根本にさかのぼった議論を**

児童生徒の出ていく社会を知ろうとしないのは極めて不誠実

学校という学びの場を子供たちが未来を感じられる空間に

リスクを恐れることが最大のリスク。凡庸な90点の取組より60点でも夢のある挑戦を

人より先に失敗する

# 産官学との連携について

- 産官学と連携することでどのようなよさがあるかを理解することから
  - ①最先端の知のリソースを教室に入れられる
  - ②働き方改革に直結する（アウトソーシング）
- 「外部機関と連携すると教職員の業務に負担感が増す」との意見をよく聞か、全く負担がないということではなく、何事も変革をしようとする際には、一定の負担感を感じる。
- 教職員が負担と感じるのは、各種調査や保護者対応、慣例的な行事、即効性の期待できない（what to 型）研修などであり、子供を育むための本来業務であれば、負担を感じても教職員が「やるべきこと」と感じるはず。
- 産官学と連携することで、プログラミング教育のコーディングをはじめ、教師がやらなくてもよい作業は、協力依頼などができ、効率性があがることも多々ある。
- これまで自前主義の慣例で続けている教育活動は、「子供を主語とした教育の推進のため」という目的に達成に向けて、産官学との連携のメガネを通して見つめ直すことは、ボトムアップ的にこれまでの教育活動を見直すチャンスになる。そのような成功体験が、自校のカリキュラムマネジメントの自走につながるなど、産官学との連携いう新しい風を職員室に吹き込むことにより、学校改革のトリガーになる可能性がある。

# 学校間格差問題について

学校長が、自校の強み、弱み、地域の実態に応じ、何を大切にするかなどによって**学校経営や運営が変わるのは当然である**。

教育動向に対しては常にアンテナを高くし、**最新の教育情報のシャワーを教職員に浴びてもらう**とともに、「**①目の前にいる子供たちがこれからどんな社会に出ていくのかを知るように努めること、②変化する社会の動きを教室の中に大いに入れること、③どのような力を育てるかを学年や教科を横断して議論する学び合う職員室をつくること**」の3点に努めていけば、そのアプローチの仕方やスピード感の違いは学校長を信頼し任せることも大切である。

また、**管理職が教職員に敢えて弱みを見せること**により、教職員同士が互いの悩みを打ち明けられやすくなる「**心理的安全性**」が醸成され、教師同士が学び合える学校組織を作っていくことも重要である。

市校長会の「**ピアレビュー**」においても、**賢さアピール、手柄話、成功談は極力少なくし、失敗や苦い経験、ヒヤリハットなどを多くして学び合ってもらっている**。このような取組を通して、教職員が学校経営に参画し、産官学と連携した自走する教職員集団が形成できると考える。

# データ駆動型授業研究（授業を科学する）

## － データドリブンの実現に向けて －

- 子供と向き合う教室レベルに近づくほど、より質的で解釈的な知が、そして、制度の枠組みを決めるマクロな政策レベルに近づくほど、量的で実証的な知が果たす役割が大きくなる
- データ利活用により「見えなかったことが見えてくる」可能性
  - ・授業：一回性の出来事（複数の主体の相互作用による動的過程）
  - ・研究：未知への挑戦（わからないから研究する）

## 【個に応じた指導（個別最適な学び）とデータ利活用】

### ○指導の個別化

理解度、到達度、速さ、思考の筋道など

- 最適化のための計測と制御（発言やノート分析、座席表など）
- テクノロジーの活用

### ○学習の個性化

- 教師の生徒理解や洞察力が不可欠、集団の中の個の磨き



# データ駆動型授業研究（授業を科学する）

## 【期待される効果】

- ・ 子供たちが主体的に自らの考えを**外化**（言語化・可視化・定量化など）したり、互いの学びのプロセスを共有したりする中で、子供たちも教師も**リフレクションが深まる気付き**を多く得られる
- ・ 教師が説明可能な判断をできたり、直観で感じていたことが客観で裏付けられる
- ・ **教師のインサイト**（腹落ち・言われて見れば確かに）**を発掘する**
- ・ **教師の判断を刺激し補強できる**
- ・ 経験、勘、コツ、からの解放を実質化
- ・ 「よい授業」の納得解や腹落ちの共有化
- ・ 優れた教師の経験や勘、匠の指導技術を可視化するなど、優れた**暗黙知の共有化**や**形式知**への転換
- ・ 軽い授業になりがちの危惧や実践感覚の共有化
- ・ 憧れを刺激したりするムーブメントのトリガーに
- ・ 長期的にみて若い先生方が元気に育つ支援や環境づくり

# 新たな学びの実現に向けて (二項対立ではないことに留意)

## 従来型の学び

教師が主語の一斉授業

教師と子供とのやりとりだけの学び

教師の敷いたレールで学ぶ予定調和の学び

教師による指導と管理のICT活用

決められた正解を時間内に探し求める学び

居心地の良い場所  
(現状維持)

指導観・  
学習観の  
転換



## 新たな学び

子供が主語の主体的な学び

子供同士による協働的な学び合い

予想外の学びや新たな挑戦を歓迎する学び

子供の学びと愛用のICT活用

答えづくりや正解のない課題解決型の学び (PBL)

居心地の悪い一歩  
(変革)

こうした転換を持続可能にするために、授業改善が不可欠

# 授業改善が進んでいる学校の特徴

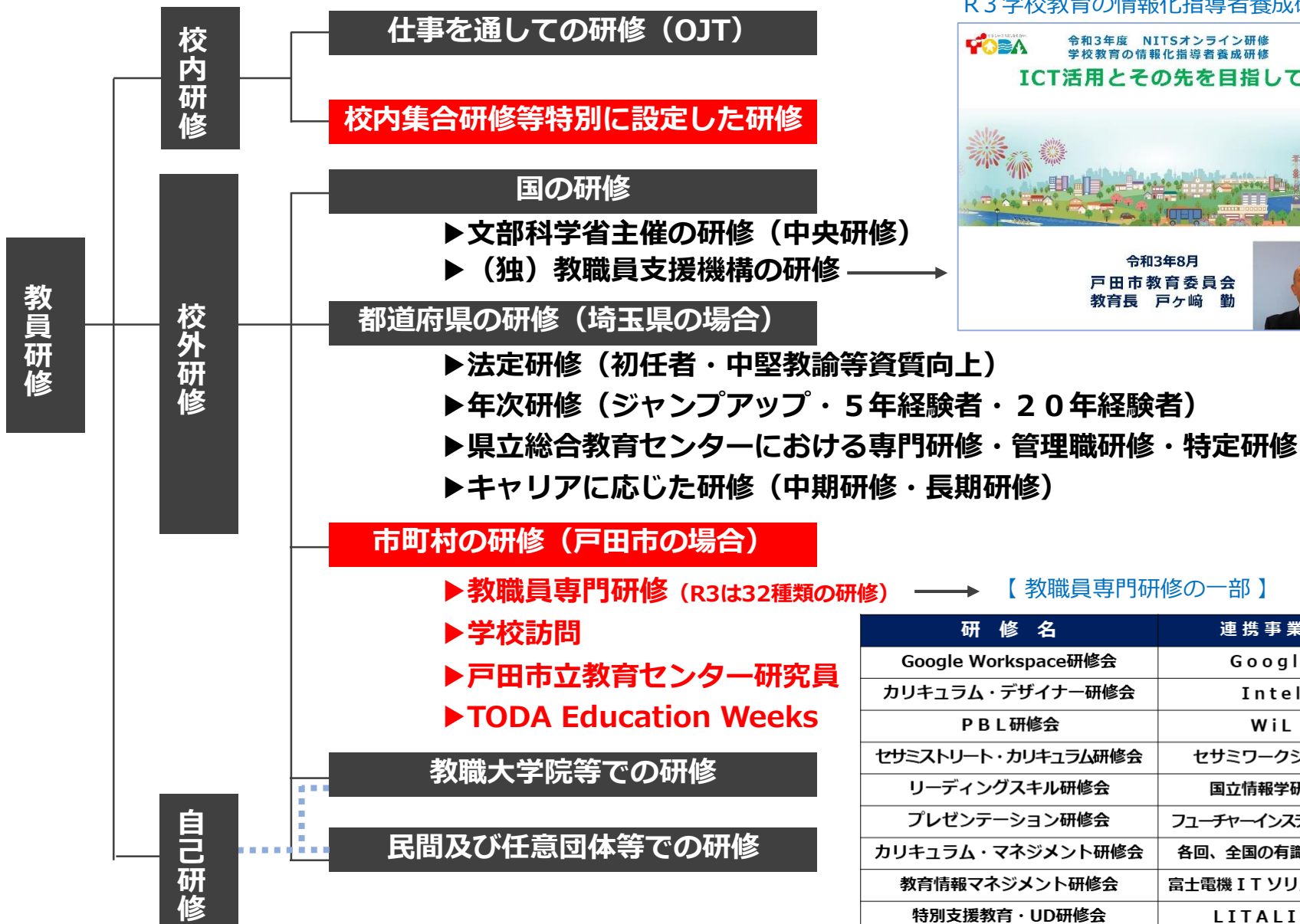
※どの学校においても、5分以内と限られた条件下での観察結果。

- ・ **校長が示すビジョン**が、「お題目」にとどまることなく、教職員、さらに子供達からも**自分事**として言及される（=**ビジョンの浸透**）
- ・ 様々な制約がありつつも、それを言い訳にすることなく、「教師」が主語ではなく、「**子供**」を主語にして、「**子供の学びの事実**」から**謙虚に学び**、**改善**していこうとする姿勢が一貫している（=**こどもまんなか**）
- ・ 学校内での「授業を軸とした」同僚性が構築され、教師達が、「**悩み**」や「**弱み**」も含めて自己開示をし、「**聴き合い**」や「**ケアの関係**」の下で、お互いを高めていく雰囲気醸成されている（=**同僚性**）
- ・ 教師が、PBL等で習得した「**学びの伴走者**」としての役割の考え方を、**教科の授業**においても**拡張**して実践している。（=**PBLから教科への波及**）
- ・ **ごく少数の推進役に依存**しておらず、視察等においても、多くの教師が授業を公開することが**意図的に仕掛け**られている。（=**点を線・面に**）

# 教員研修と戸田市の取組

## 研修の種類

※ (独) 教職員支援機構「教職員研修の手引き2018」を基に作成



### R3 学校教育の情報化指導者養成研修会



研修名	連携事業者
Google Workspace研修会	Google
カリキュラム・デザイナー研修会	Intel
PBL研修会	WiL
セサミストリート・カリキュラム研修会	セサミワークショップ
リーディングスキル研修会	国立情報学研究所
プレゼンテーション研修会	フューチャーインスティテュート
カリキュラム・マネジメント研修会	各回、全国の有識者を招聘
教育情報マネジメント研修会	富士電機 ITソリューション
特別支援教育・UD研修会	LITALICO



# 戸田市の教師の学び ～目指す姿～

## Mission

教師一人ひとりのキャリアステージやニーズに合った「学びの場」が提供され、学び続けることが出来る

## Vision

教師の「個別最適な学び」と「協働的な学び」が実現

組織

### 校内研修

モデル校での高度化を支援

### 学校訪問

各教科の、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を授業と紐付けて提示

### 教科等研究部会

大学等から一流の講師を呼んでの授業研究等を支援

カリキュラム・コ  
ディネーター研修

カリキュラム・マ  
ネジメント研修

初任者研修

5年経験者研修

中堅教諭等資  
質向上研修

### 教育フェスティ バル研修会

20年経験者研修

経験年数

### 専門研修

教科指導の悩みを教師から聞いたり、教科の魅力  
を熱く語る機会を設定（選択必修参加）

### 教科教育研修

大学等から一流の講師を呼んでの授業研究や準備支  
援（他教科に拡大）

NITSの研修

### センター研究員

先進地視察・セミナー参加や大  
学等と連携した研修等を支援

中期研修・長期研修

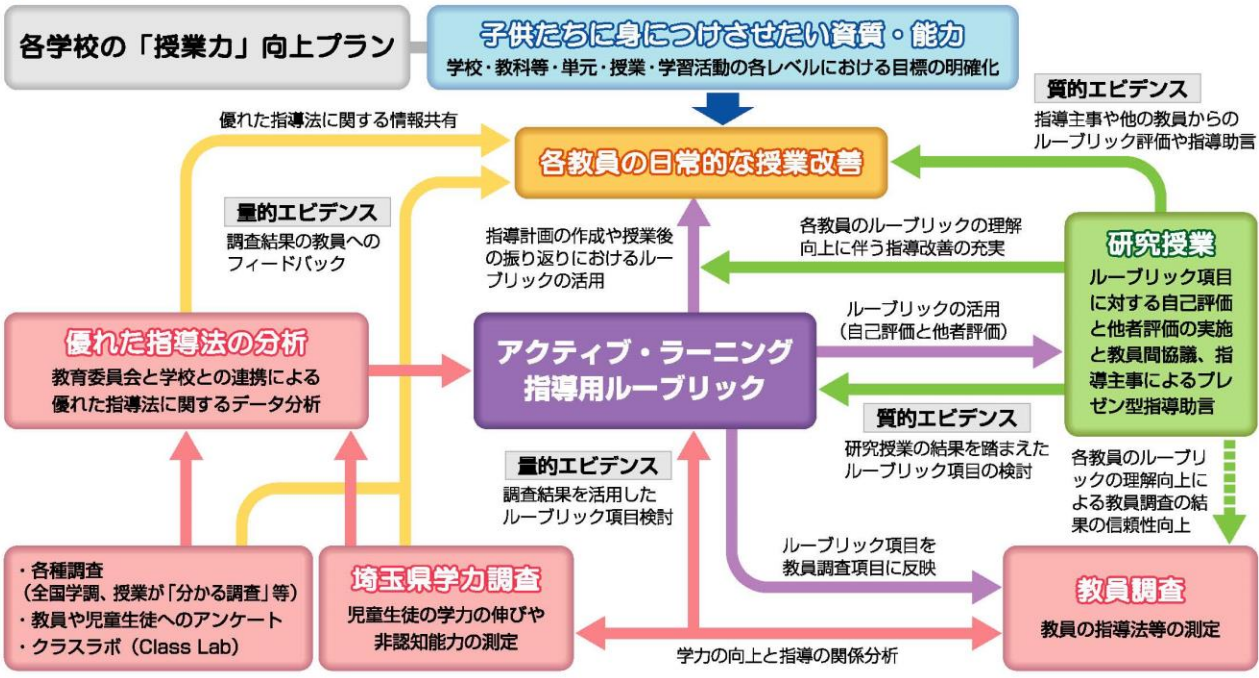
※これらはいくまでも主なものであり、  
この他、令和の日本型学校教育  
の実現を支援する研修会等  
を多数開催。

個人

# アクティブ・ラーニング推進のための戸田型授業改善モデル



## ◆戸田型授業改善モデルのイメージ



## ◆戸田型授業改善モデルの5つのポイント

- 1 子供たちに身につけさせたい資質・能力の明確化**  
 ★子供たちに身につけさせたい資質・能力を、学校→教科等→単元(題材)→授業→具体的な学習活動の各レベルにおいて明確化し、授業の目標を設定する。
- 2 ルーブリックの中核化**  
 ★アクティブ・ラーニング推進のための本市独自の指導用ルーブリックを、各教員の日常的な授業改善、研究授業、教員調査等のすべての取組をつなぐための拠り所とする。  
 ★研究授業、授業研究会、校内研修等の取組を通じて、ルーブリックの理解(=アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善についての理解)を効果的に深める。
- 3 各教員へのフィードバックの充実**  
 ★授業改善に向けた気付きを生む各教員へのフィードバックを重視する。  
 ★県学調の結果などの量的エビデンスや、授業後の子供たちの振り返りや研究授業における自己評価と他者評価に基づく協議結果などの質的エビデンスの双方の視点を盛り込んだ効果的な情報の組み合わせによるフィードバック手法を検討する。
- 4 アクティブ・ラーニングへの理解を加速する質の高い研究授業**  
 ★研究授業において授業者と観察者がともにルーブリックを用いて評価し、その評価の違い等について協議すること、また研究授業と公開授業とともに指導主事からルーブリックに沿ったプレゼンテーション型の指導を行うことで、アクティブ・ラーニングへの理解を一気に深める質の高い研究授業を実施する。
- 5 エビデンススペースでのルーブリックの継続的改善**  
 ★教員調査にルーブリックの項目を盛り込み、県学調による学力の伸びとの関係を分析(量的エビデンス)。また、研究協議等における評価シート等のデータを蓄積(質的エビデンス)。これらをもとに、ルーブリックの項目について検証・改善を行う。

## ◆アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

授業改善モデルの軸とする「アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック」は、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行う際のチェックポイントをルーブリック形式にまとめたもの。今後も様々なエビデンスに基づき継続的に改善する。

### アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックより作成したチェックポイント表(平成30年版)

- **目指すべき目標、評価規準の設定等**  
 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか  
 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できていたか。  
 本時の目標が達成できているか評価規準が設定できていたか。  
 子供の学習意欲を高められるような導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)
- **主に主体的な学びの視点**  
 子供が自分の考えを表現することができていたか  
 本時の課題を正しく伝えることができていたか。  
 自分の考えを表現することができるように、(主につまづいている子供たちへの)支援方法を準備し、実行できていたか。  
 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができていたか。  
 学習活動は、目標の達成につながっているか。
- **主に対話的な学びの視点**  
 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか  
 子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できていたか。  
 子供たちの考えを広げ深められるよう、教員(タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等)を工夫し用いていたか。  
 子供たちの考えを板書(ホワイトボード等で示すことも含む)できていたか。
- **主に深い学びの視点**  
 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか  
 子供たちが本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。  
 子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。  
 子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する(板書・口頭等)ことはできたか。
- **学びの評価・振り返り**  
 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など学びの成果や課題を実感していたか。  
 評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの姿を評価することができたか。  
 評価するための方法や場面を設定することができていたか。  
 子供たちが本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。

(注) ルーブリックは、平成28・29年度の文部科学省委託事業「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」を通じ、本市独自で作成。アクティブ・ラーニング研究員、学校管理職、研究主任等が特色ある7つの授業について観察、評価、協議を行うことで作成された約100枚の評価シートから、教科横断的かつ重要な指導要素を段階的な協議を経て抽出した。



# 戸田市リーディングスキル（RS:汎用的読解力）育成プラン

～すべての児童生徒が教科書を読めるようになるために～

RSとは、未知のテキストを読み、未知の概念と知識とを理論的に結びつけながら理解していく力

人工知能（AI）が様々な職業を代替していく時代に向かうために

授業改善

- ・「正解を当てる力」を付けるだけの学校教育からの脱却
- ・「AIでは代替することができない能力」の育成
- ・AIには難しいと言われる「意味がわかって考える力」の育成



NII 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構  
国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

国立情報学研究所

共同研究

戸田市教育委員会



- RSTの実施（市内全小6生及び全中学生及び希望する学校の教師）

- RST結果の分析
  - ・全国及び埼玉県学力・学習調査との相関分析
  - ・RSの高い児童生徒の学習状況等

- 教員研修会の開催
  - ・戸田市RS研究員による授業研究会
  - ・市センター研究員RS部会での授業案づくり（勤務時間後の自主的学習会）
  - ・管理職や教員対象のRS研修会の開催

AIに  
負けない  
子どもを育てる

21st Century Children

新井紀子

AIに仕事を奪われない!  
読解力アップの  
実践法  
日本中で騒然の書「AIと教科書」の  
待望の続編

あなただけは「体験版」  
リーディング  
スキルテスト  
収録

AI

VS.

教科書が読めない  
子どもたち

Artificial intelligence vs. Children who can't read textbooks

新井紀子

人工知能は  
すでに  
MARCH  
合格レベル

勝つために  
人間が  
必要なのは  
こと

41

# 戸田市のRSTの取組について

全ての生徒が中学校卒業段階で教科書を正しく読めるようにする。

## 戸田市の受検状況

戸田市内中学校2校区（小学校4校中学校2校）でRSTを実施

対象児童生徒：【小学校】第6学年 【中学校】全学年

実施時期：9月～10月（結果を11月上旬に送付）

**令和5年度より市内全小・中学校で実施**

## RSの向上を目指した取組

RS研修会の実施（5月）

RST説明会の実施（11月）

RSTの研究（3月）



市内全小・中学校の  
代表の教員1名が参加



リーディングスキルテスト (RST)  
について

令和4年11月16日(水)  
戸田市教育委員会  
指導主事 菊地 孝徳



令和3年度  
戸田市教育研究集録

戸田市教育フェスティバル開催

令和4年度  
指導の重点・主な施策

～とどっこやり抜く力で 未来に夢を～

参加した各小・中学校の代表の教員が各学校  
で児童生徒のRSの向上やRSTの視点を生  
かした授業改善を広める推進役となる。

RST受検校の代表の先生を対象  
にRSTの結果の見方や活用方法  
について説明会を実施し、校内の  
推進を促している。

・RSTと県学力調査との関係の分析など  
研究成果を「戸田市教育研究集録」に掲載  
・RSTの視点を生かした授業改善につ  
いて「戸田市指導の重点・主な施策」に掲載



# リーディングスキルの育成・研究について

## ①リーディングスキルが学力向上に与える影響

令和2年度  
埼玉県学調

令和2年度  
RST

令和3年度  
埼玉県学調

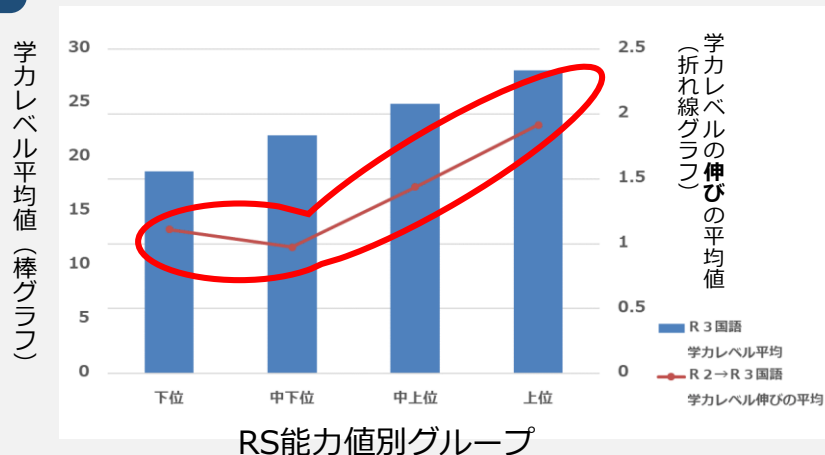
小6 5月

9月

中1 5月

埼玉県学調の令和2年度から令和3年度の経年変化と、令和2年度RSTの結果を分析した。RSの能力値平均を高低で4分類し、学力と学力の伸びとの関係を見たところ、**RSが高いグループの方が、国語の学力レベルが伸びる傾向にあった。数学は？**

令和2年度RSの能力値階層別  
学力レベル及び学力の伸びの関係



RSの高い子供は学力調査結果を経年で追ったとき学力の伸びが見られた

## ②研究委嘱校のリーディングスキル向上

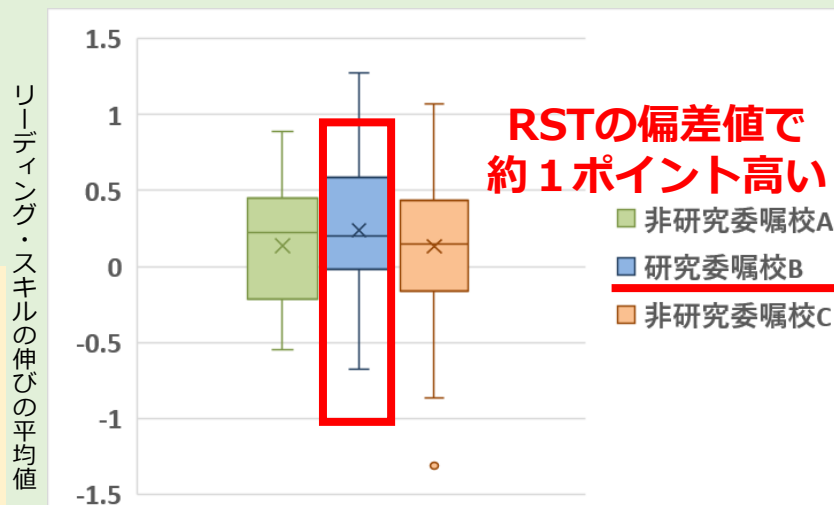


研究委嘱により  
RSTの視点で  
授業改善



令和2年度の小学校6年生が令和3年度にかけて、RSがどのくらい伸びたかを分析。RSの研究委嘱校だった**B校のRSの伸びの平均値0.24**は、中学生も含めた**市内全体のRSの伸びの平均値0.11**よりも高かった。また、小学校同学年間の比較をしても、研究委嘱校B校の伸びは、非研究委嘱校のA校(0.14)、C校(0.13)よりも高かった。

令和2年度の出身小学校別 RSの伸び



リーディング・スキルの伸びの平均値

RSTの偏差値で  
約1ポイント高い

RST研究校では学力調査の成績に関わらず、RSの能力値を伸ばしている

# リーディングスキル受検校の教師・児童生徒の変化

## RST受検校の教師

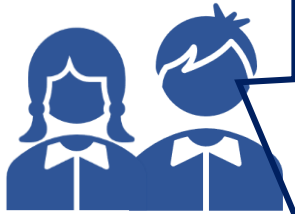
教材研究・授業準備の仕方が変化  
児童生徒への声かけ等、指導や支援方法が変化



- 教材研究の時に児童がつまづきやすいポイントや支援方法を考えながら進めることができるようになった。
- 学習用語や資料を丁寧に確認するようになった。
- 言葉と図や式、グラフなどとの関係を捉えることの難しさに気付き、丁寧に指導するようになった。
- 児童が言葉に対してもっているイメージのずれに気付きやすくなり、確認する内容や声かけの仕方が変わった。

## RST受検校の児童生徒

学習態度の変化・主体的な学びへの結び付き  
教科書等の言葉や資料への意識が変化



- 分からない言葉を調べたり、言い換えたりする習慣が身についてきた。
- 資料と文章を対応させながら読むことができるようになってきた。
- 主語・述語の関係を意識するようになった。
- 「これってどういう意味？」「○○と□□って同じ？」という児童のつぶやきが出てくるなど、言葉に着目する様子が見られるようになってきた。
- 場面をイメージしながら文章を読むことで、書かれていることを整理して捉えたり問われていることを理解したりできる生徒の姿が見られるようになった。

# 令和4年度における学校カルテの試行について

埼玉県学力・学習状況調査（県学調）の児童生徒質問紙より抽出した以下の項目、及び授業がわかる調査などのデータを集計し、**学校訪問時に、各校の傾向を管理職に共有。**

## 埼玉県学調の児童生徒質問紙

- ① 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。
- ② 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。
- ③ 授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表すること（がよくありましたか）。
- ④ 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと（がよくありましたか）。
- ⑤ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんできたこと（がよくありましたか）。

## 授業がわかる調査

- ① 授業がわかりますか。
- ② 授業が楽しいですか。
- ③ （探究心に関する質問）
- ④ （社会貢献意欲に関する質問）
- ⑤ （協働意識に関する質問）

※ほか、一部の学校で実施しているQ-Uアンケート（学級満足度等に関する調査）も活用

## ○教育委員会から学校へのメッセージ

- ・**多角的な視点**から、データを捉えてもらいたい
- ・**子供目線**で、取組を振り返ってもらいたい

## ○学校経営をデータから捉える（学校カルテ）

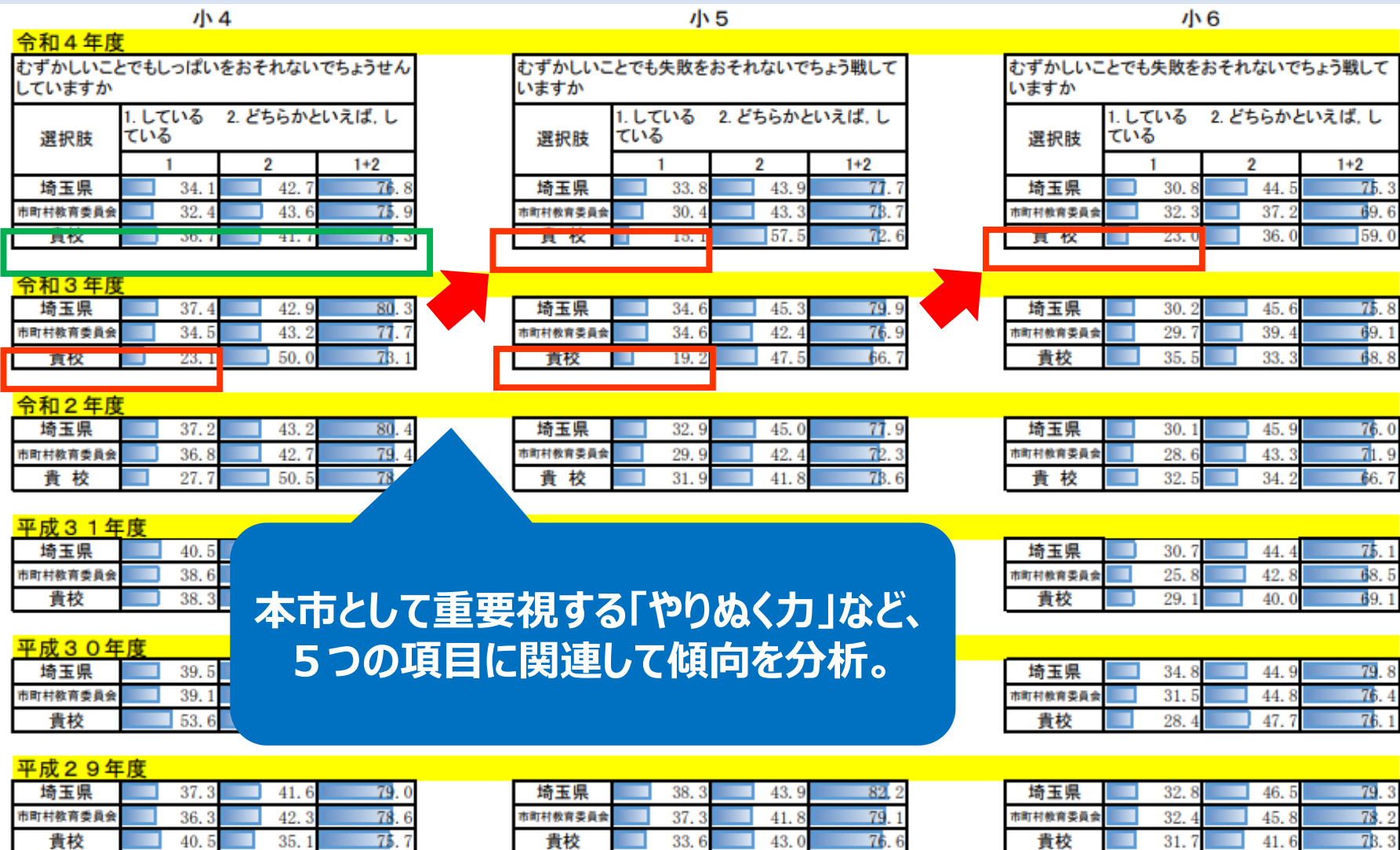
- ・年度間、学年間の傾向の変化
- ・学力だけでなく、学校の雰囲気や授業の質（学校の理解度・信頼度）

## ○継続的な授業改善のためのシステムづくり



# 学校訪問での活用資料の例①（県学調質問紙の分析）

「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。」については、肯定的な回答の割合が**小4は県・市平均を上回る**。小5・小6は、**昨年度（小4・小5時）から引き続き、特に、強い肯定の回答の割合が県・市平均よりも低い**。



本市として重要視する「やりぬく力」など、5つの項目に関連して傾向を分析。



# 学校訪問での活用資料の例②（授業がわかる調査の分析）

## ＜学級別の傾向（小5）＞

全体的には**1組が肯定的な回答の割合が増加傾向にある教科等が比較的多く、2組が減少傾向にある教科等が比較的多い。**3組は②「授業が楽しいですか」の**家庭・外国語、探究心及び協働意識が肯定的な回答の割合が減少傾向**にある。

### 令和4年度第1回（1組）

### 令和4年度第2回（1組）

第5学年 1組

●授業の内容がわかりますか。

	国語	社会	算数	理科	外国語	平均
よくわかる	50.0%	41.7%	41.7%	61.1%	38.9%	46.7%
だいたいわかる	38.9%	36.1%	33.3%	27.8%	36.1%	34.4%
どちらともいえない	8.3%	8.3%	13.9%	5.6%	16.7%	10.6%
少しわからない	2.8%	8.3%	8.3%	2.8%	2.8%	5.0%
ほとんどわからない	0.0%	5.6%	2.8%	2.8%	5.6%	3.3%
わかる計(よくわかる+だいたいわかる)	88.9%	77.8%	75.0%	88.9%	75.0%	81.1%

第5学年 1組

●授業の内容がわかりますか。

	国語	社会	算数	理科	外国語	平均
よくわかる	46.4%	46.4%	35.7%	57.1%	50.0%	47.1%
だいたいわかる	46.4%	42.9%	50.0%	32.1%	25.0%	39.3%
どちらともいえない	3.6%	7.1%	10.7%	3.6%	10.7%	7.1%
少しわからない	3.6%	3.6%	3.6%	7.1%	10.7%	5.7%
ほとんどわからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.7%
わかる計(よくわかる+だいたいわかる)	92.9%	89.3%	85.7%	89.3%	75.0%	86.4%

●授業が楽しいですか。

	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語
とても楽しい	44.4%	55.6%	41.7%	63.9%	75.0%	82.9%	69.4%	71.4%	52.8%
少し楽しい	30.6%	22.2%	19.4%	19.4%	16.7%	11.4%	22.2%	20.0%	19.4%
どちらともいえない	8.3%	8.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%	5.6%	8.6%	25.0%
少し楽しくない	11.1%	2.8%	5.6%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%
楽しくない	5.6%	11.1%	8.3%	8.3%	0.0%	2.9%	2.8%	0.0%	2.8%
楽しい計(とても楽しい+少し楽しい)	75.0%	77.8%	61.1%	83.3%	91.7%	94.3%	91.7%	91.4%	72.2%

●授業が楽しいですか。

	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語
とても楽しい	42.9%	35.7%	46.4%	53.6%	75.0%	64.3%	75.0%	57.1%	50.0%
少し楽しい	39.3%	50.0%	39.3%	32.1%	14.3%	28.6%	17.9%	32.1%	39.3%
どちらともいえない	7.1%	0.0%	10.7%	0.0%	7.1%	3.6%	7.1%	7.1%	10.7%
少し楽しくない	10.7%	10.7%	3.6%	7.1%	3.6%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%
楽しくない	0.0%	3.6%	0.0%	7.1%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
楽しい計(とても楽しい+少し楽しい)	82.1%	85.7%	85.7%	85.7%	89.3%	92.9%	92.9%	89.3%	89.3%

●興味や関心をもったことについて、自分なりに調べて考えを深めていますか。

とてもあてはまる	27.8%
だいたいあてはまる	44.4%
どちらともいえない	25.0%
あまりあてはまらない	2.8%
まったくあてはまらない	0.0%
あてはまる計	72.2%

●授業も楽しみましたか。

第1回（6月）→第2回（12月）  
で7%以上増加を緑、7%以上減少を赤などとすると、同じ学年の中でも・・・

●授業をきっかけに、学校や地域や社会をよくするために改善した方がよいことを考えたり、思いついたりすることはありますか。

とてもあてはまる	17.9%
だいたいあてはまる	35.7%
どちらともいえない	28.6%
あまりあてはまらない	17.9%
まったくあてはまらない	0.0%
あてはまる計	53.6%

●授業で、友達と意見したりするなかで、自分たりすることができてい

よくできている	
だいたいできている	
どちらともいえない	
あまりできていない	
まったくできていない	
できている計	

# 学校訪問での活用資料の例③（授業がわかる調査の分析）

＜学級別の傾向（**小5**）＞

全体的には**1組**が肯定的な回答の割合が増加傾向にある教科等が比較的多く、**2組**が減少傾向にある教科等が比較的多い。**3組**は②「授業が楽しいですか」の**家庭・外国語、探究心及び協働意識**が肯定的な回答の割合が減少傾向にある。

令和4年度第1回（2組）

令和4年度第2回（2組）

第5学年 2組

●授業の内容がわかりますか。

	国語	社会	算数	理科	外国語	平均
よくわかる	35.3%	61.8%	47.1%	66.7%	58.8%	53.9%
だいたいわかる	52.9%	23.5%	32.4%	24.2%	17.6%	30.1%
どちらともいえない	5.9%	8.8%	8.8%	6.1%	20.6%	10.0%
少しわからない	2.9%	2.9%	11.8%	0.0%	0.0%	3.5%
ほとんどわからない	2.9%	2.9%	0.0%	3.0%	2.9%	2.4%
わかる計(よくわかる+だいたいわかる)	88.2%	85.3%	79.4%	90.9%	76.5%	84.1%

第5学年 2組

●授業の内容がわかりますか。

	国語	社会	算数	理科	外国語	平均
よくわかる	37.1%	51.4%	51.4%	42.9%	42.9%	45.1%
だいたいわかる	48.6%	37.1%	28.6%	37.1%	25.7%	35.4%
どちらともいえない	14.3%	11.4%	17.1%	20.0%	20.0%	16.6%
少しわからない	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	8.6%	2.3%
ほとんどわからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.6%
わかる計(よくわかる+だいたいわかる)	85.7%	88.6%	80.0%	80.0%	68.6%	80.6%

●授業が楽しいですか。

	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語
とても楽しい	35.3%	54.3%	40.0%	45.7%	70.6%	54.3%	62.9%	54.3%	48.6%
少し楽しい	35.3%	25.7%	20.0%	31.4%	20.6%	25.7%	17.1%	14.3%	25.7%
どちらともいえない	11.8%	5.7%	17.1%	8.6%	8.8%	11.4%	8.6%	11.4%	14.3%
少し楽しくない	11.8%	8.6%	8.6%	2.9%	0.0%	8.6%	8.6%	8.6%	8.6%
楽しくない	5.9%	5.7%	14.3%	11.4%	0.0%	0.0%	2.9%	11.4%	2.9%
楽しい計(とても楽しい+少し楽しい)	70.6%	80.0%	60.0%	77.1%	91.2%	80.0%	80.0%	68.6%	74.3%

●授業が楽しいですか。

	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語
とても楽しい	23.5%	55.9%	28.6%	40.0%	65.7%	60.0%	45.7%	45.7%	42.9%
少し楽しい	38.2%	20.6%	28.6%	25.7%	20.0%	17.1%	31.4%	25.7%	22.9%
どちらともいえない	23.5%	11.8%	20.0%	20.0%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	20.0%
少し楽しくない	5.9%	8.8%	8.6%	11.4%	2.9%	5.7%	5.7%	5.7%	5.7%
楽しくない	8.8%	2.9%	14.3%	2.9%	0.0%	5.7%	5.7%	11.4%	8.6%
楽しい計(とても楽しい+少し楽しい)	61.8%	76.5%	57.1%	65.7%	85.7%	77.1%	77.1%	71.4%	65.7%

●興味や関心をもったことについて、自分なりに調べて考えを深めていますか。

とてもあてはまる	25.7%
だいたいあてはまる	42.9%
どちらともいえない	20.0%
あまりあてはまらない	11.4%
まったくあてはまらない	0.0%
あてはまる計	68.6%

●授業をきっかけに、学校や地域や社会をよくするために改善した方がよいことを考えたり、思いついたりすることはありますか。

とてもあてはまる	28.6%
だいたいあてはまる	22.9%
どちらともいえない	34.3%
あまりあてはまらない	11.4%
まったくあてはまらない	2.9%
あてはまる計	51.4%

●授業で、友達と...

学級によってかなり傾向が異なっていることが分かった。

●授業をきっかけに、学校や地域や社会をよくするために改善した方がよいことを考えたり、思いついたりすることはありますか。

とてもあてはまる	28.6%
だいたいあてはまる	37.1%
どちらともいえない	20.0%
あまりあてはまらない	8.6%
まったくあてはまらない	5.7%
あてはまる計	65.7%

●授業で、友達と意見したりするなかで、自分のできることができてい

よくできている	
だいたいできている	
どちらともいえない	
あまりできていない	
まったくできていない	
できている計	

# 学校訪問での活用資料の例④ (研究協議での指導での活用)



令和3年度第1回

令和3年度第2回

第2学年

第2学年

教師の授業の工夫が、子供達から見たデータでも肯定的に裏付けられていることが分かった。

●授業の内容がわかりますか。

●授業の内容がわかりますか。

	理科	平均
よくわかる	31.5%	28.5%
だいたいわかる	44.9%	40.7%
いえない	12.4%	13.0%
わからない	6.7%	10.3%
わからないから	4.5%	7.4%
よくわかる(だいたいわかる)	76.4%	69.2%

	理科	平均
よくわかる	23.5%	26.6%
だいたいわかる	55.3%	40.2%
どちらともいえない	12.9%	17.4%
少しわからない	4.7%	10.6%
ほとんどわからない	3.5%	5.2%
よくわかる計	78.8%	66.8%

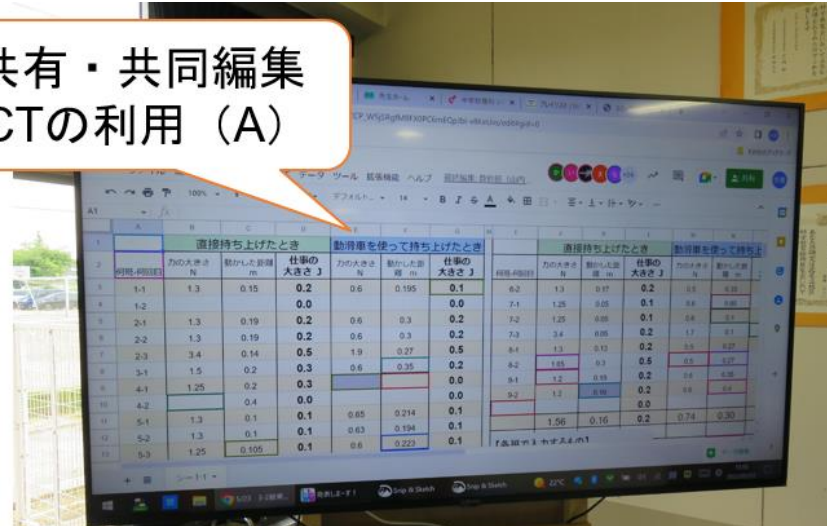
●授業が楽しいですか。

●授業が楽しいですか。

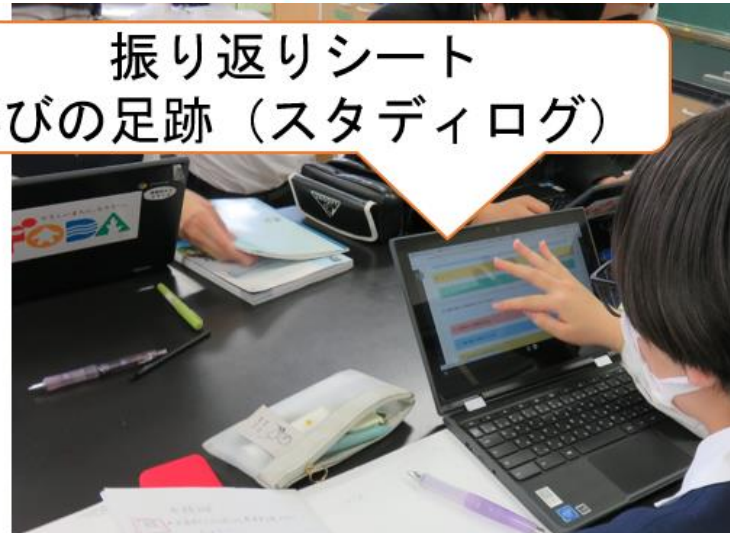
	理科	平均
とても楽しい	28.1%	35.2%
少し楽しい	40.4%	31.8%
いえない	18.0%	18.4%
少し楽しくない	7.9%	8.6%
楽しくない	5.6%	6.1%
楽しい計(とても楽しい+少し楽しい)	68.5%	66.9%

	理科	平均
とても楽しい	31.8%	32.8%
少し楽しい	45.9%	37.2%
どちらともいえない	14.1%	19.2%
少し楽しくない	4.7%	6.0%
楽しくない	3.5%	4.8%
楽しい計	77.6%	70.0%

共有・共同編集  
ICTの利用 (A)



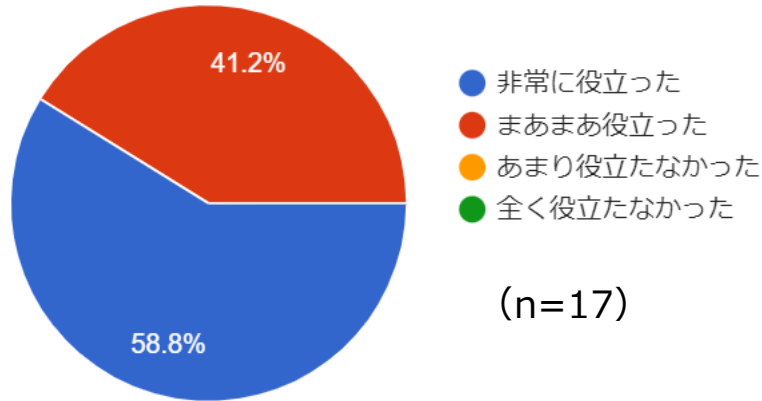
振り返りシート  
学びの足跡 (スタディログ)





# 学校カルテの試行の成果と課題①

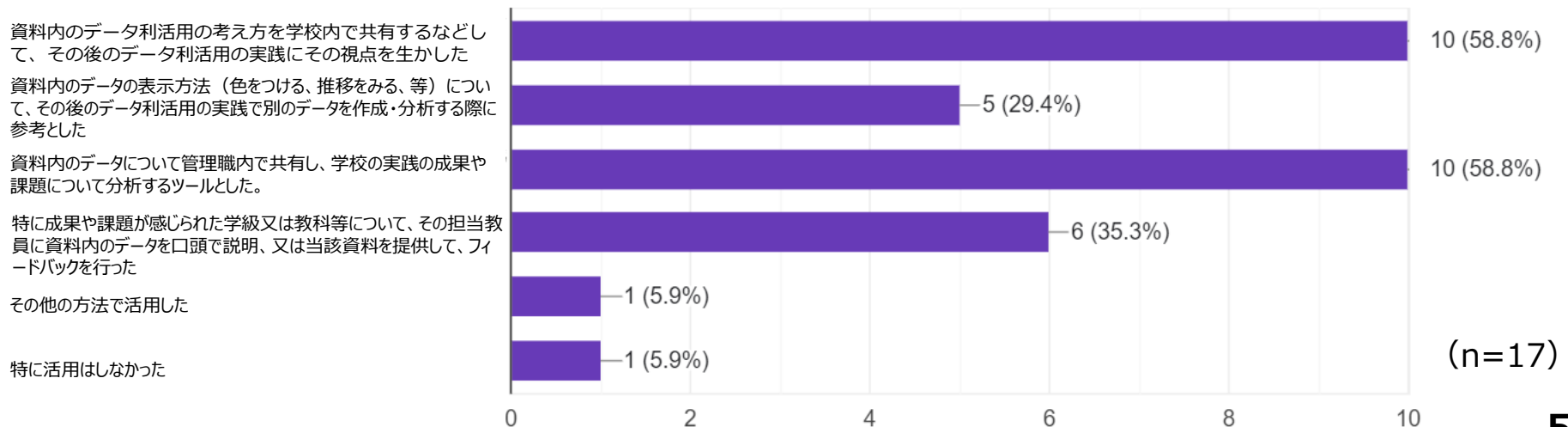
① 学校長へのアンケートでは、「データ利活用に関する資料」が「非常に役立った」又は「まあまあ役立った」が100%となった。



## 【自由記述（一部抜粋）】

- ・ 静的な平均値だけではなく、様々な粒度に分解することで、データの見方が変わり、活用の方向性が定まりやすくなった。
- ・ 面談は終わりましたが、関係の職員にはいただいた資料を参考にして、個別に話をしたいと思いました。
- ・ 人事評価の期末面談で活用でき、本人が授業・学級経営について振り返る機会、材料となった。また、県学調の質問紙分析は、研修部で共有を図り、今後の研修の方向を探る材料として活用できた。

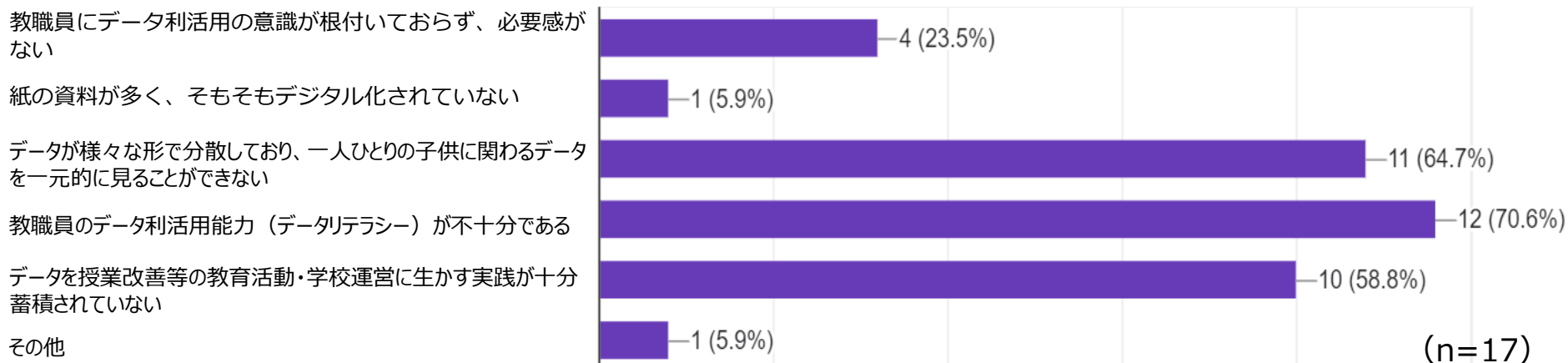
② 具体的な活用方法を複数選択式で聞いたところ、データ利活用の考え方の共有や管理職内での共有、成果や課題が感じられた学級又は教科等のフィードバックが多かった。





# 学校カルテの試行の成果と課題②

③今後、学校でデータ利活用の実践を進めていくに当たっての課題について複数選択式で聞いたところ、**教職員のデータリテラシーやデータの散在、授業改善等に生かす実践の不足**などが多かった。



## 【自由記述（一部抜粋）】

- ・管理職が、このデータを見て、ひとりひとりの職員にどのようにフィードバックしていくか。よいところを示しながら、さらに伸ばしていく、よさを広げていくという全面展開の仕方。課題を示しても、職員のやる気をそぐだけであると思われるので。
- ・データ利活用について、数値的な分析からもう一步踏み込んで、「現状の考えられる原因」「改善策の例示」などが示されると有り難い。それは、学校がやることであるとも考えられるが、分析等の時間の確保、誰が行うのか、周知して自分の指導等に生かすようになるまでの手間、さらに出てきた課題を教員で共有する等の時間を捻出するのが難しい。
- ・学校が所有している数多くの調査・学力データを児童個人と教師に紐付けして6年間蓄積させ、必要事案に応じて管理職や教師が必要なデータを組み合わせる表示・分析等の活用することができるシステムの構築。学校の職員が調査データを追加できるとフレキシブルな運用が可能となり、活用ハードルが下がると思います。
- ・データ量が多く、校内で整理・分析するのに時間がかかってしまう。効率的なデータ整理、分析の方法等について担当者研修や、データ活用の教員研修などのサポートがあるとよいと思います。データ利活用のよさを一般教員に実感させる研修が必要。
- ・いただいた資料であるが、平均値のみがクローズアップされており、集団が理想的な正規分布であればある程度は集団の傾向はつかめるだろうが、現実の集団分布は様々であり平均値だけで集団の傾向を捉えることには無理がある。現在、本校では市教委と連携して、学年や学級を平均値のみで一括りにするのではなく、各学級毎に集団を（中略）分け、各集団ごとに各教科、学習方略、伸び等の数値から有意差検定を行い、特性や要支援児童を洗い出し、学習指導に生かしている。今後も市教委と連携して、宝の山である県学調のデータを有効活用していきたい。

# 戸田型オルタナティブ・プランの更なる推進

(令和5年度)

～誰一人取り残されない教育の実現～

- ◆ 「未然防止」「早期発見・早期対応」「適切な支援」のための選択肢
- ◆ 「リアル」と「デジタル」の両面からの支援の充実、各居場所の有機的な連携の強化

1  
人

## 多様な学びの場の拡充 不登校を支援する

児童生徒の心理的安全性を高め、学びに向かえる場所の選択肢を拡充

市長部局など関係機関との連携

- ・ 戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」を、年度当初から小学校全12校に設置（全小学校へスクールサポーターを配置）
- ・ 教育センター内にある「すてっぷ」を別の拠点（西部）に1教室増設
- ・ 総合的な不登校対策により、それぞれの場の有機的な連携を強化



## 不登校対策ラボトリー 「ぱれっとラボ」の取組深化 不登校を科学する

戸田市教育政策シンクタンクとの連携  
全人的な教育を科学の視点で捉え、支える

こども家庭庁実証事業に採択

- ・ 不登校対策ラボトリー「ぱれっとラボ」による効果検証
- ・ 各学校や相談室等での不登校に関する取組への指導・助言
- ・ 「教育総合データベース」事業による、誰一人取り残されない、子供たち一人一人に応じた支援の実現
- ・ アンケート等を活用した調査・分析・予兆の発見
- ・ 本市の不登校対策・支援に関する調査・研究・評価



## 社会に開かれたネットワーク の構築（教育相談体制を拡充）

### 不登校を理解する

地域や保護者の理解を深め、協働の機運醸成を図る

委託・連携事業等との関係強化

- ・ 「戸田市不登校について考える会」の実施
- ・ 教育センターの教育相談対応時間の拡充  
（各小中学校でのスクールカウンセラーによる教育相談の他、教育センターでの心理カウンセラーによる相談を、土日に加え週1回平日夜間にも相談できる体制を整備）
- ・ 民間との連携による、オンラインを活用した相談及び支援体制の強化



# 多様な学びの場の選択肢

小学校

SC・SSW・  
スクールサポーター  
と連携

教室  
ぱれっとルーム

R4 NEW

埼玉県立  
戸田翔陽高校内

R4 NEW

生徒支援教室  
いっぽ

自宅



オンラインの  
授業参加も

メタバース

R4 NEW



(認定NPO法人カタリバ)

room-K

中学校

教室  
さわやか相談室

SC・SSW・  
スクールサポーター  
と連携

教育支援センター

R5 NEW



戸田市立  
教育センター  
「すてっぷ」



西部福祉センター  
(通称「西すてっぷ」)





# 令和5年度 戸田市教育相談充実構想

## 各小・中学校

### 小学校スクールカウンセラー

全12校週2回配置 年90回

- 児童、保護者等の相談 ○教室訪問
- 教職員への助言 ○教職員研修の実施
- ケース会議等への参加 ○発達検査の実施

### 中学校スクールカウンセラー

県費3校週1回、3校隔週配置  
市費6名、年40回配置

- 中学校区の児童生徒、保護者等の相談
- 関係機関との連携 ○教職員への助言

拡充

### ピアサポーター

大学生ボランティア

### スクールサポーター

小学校「ばれっとルーム」に1名配置 年169日  
中学校 各校に1名配置 年220日

- 不登校対策支援 ○ばれっとルーム運営(小)
- 校内巡回 ○学習補助 ○生徒指導対応

### さわやか相談員・ボランティア相談員

さわやか相談員6名 週5日  
ボランティア相談員12名 週2~3日

- 中学校区の児童生徒、保護者等との相談
- 教育センター・SC・SSWとの連携

### スクールソーシャルワーカー

各中学校週1日配置 ※県費2名・市費1名

- 不登校への対応 ○児童生徒虐待への対応
- 家庭訪問対応 ○福祉との連携

「切れ目のない支援」「きめ細やかな支援」  
一人一人の多様なニーズに応じた教育相談

### 【重点事項】

- ①専門性のある人材の安定的な確保
- ②気軽に相談できる体制づくり
- ③不登校児童生徒支援の充実

### 「シェア型」オンライン教育支援センター

認定NPO法人カタリバと連携

- オンライン不登校支援プログラム
- オンライン教育相談・学習支援

拡充

### 教育心理専門員

平日及び土日に配置 週4~5日 年200日程度

- 児童生徒、保護者等の相談 ○早期就学相談
- 発達検査の実施 ○5歳児発達健診での相談

### SNS教育相談

専門カウンセラー が対応

- SNS相談 17時から21時を想定(7月開始)

### 教育相談コーディネーター

平成30年度から1名配置 年171日

- 学校及び各関係機関との相談機能の連携・強化
- 総合的な教育相談体制の構築
- すてっぷとの連携・相談員の支援

## 戸田市立教育センター

新規

R5より西部地区に1教室増設

### 日本語指導員

5名配置 週1~3日

- 市内小・中学校への日本語の訪問指導及びサポート
- 日本語指導が必要な児童生徒等へのアセスメント
- 日本語指導が必要な児童生徒及び保護者との相談
- ※別途日本語指導教員5校配置

### 生徒支援教室「いっぽ」

月~金 10:00~15:00 金は教育相談

- 埼玉県教育委員会設置
- 個別学習(いっぽのスタッフが支援)
- 体験活動(栽培活動・高校生等との交流等)
- 戸田市教育委員会との連携事業

### 教育支援センター「すてっぷ」

平日10:00~15:00 年190日程度

- 戸田市不登校対策支援の拠点
- 不登校児童生徒に適した支援プログラムの実施
- 不登校児童生徒の保護者支援
- アウトリーチ型支援の研究と実践

### 心の教育アドバイザー

平成30年度から1名配置

- 小・中学校、幼稚園・保育園と連携・訪問・相談
- 福祉、医療等と幅広く連携した早期就学相談
- 一人一人の教育的ニーズに応じた就学相談



# 戸田市版学校経営ルーブリック（第1版）について

○ **学校経営の実践において参照すべき視点（物差し・レンズ）**である「戸田市版学校経営ルーブリック」の第1版を、校長等ヒアリングでの意見を基に作成、市内全校と議論し修正を経たものとして、以下のとおり定める。

○ 本ルーブリックは、令和5年度の学校訪問や研修等の機会を捉えて、**学校管理職や学校組織全体として日々の実践を振り返り、改善するために試行的に活用**し、そこでの成果や課題等を踏まえて更なる改善を図る。

## 1 ビジヨナリーとしての管理職

- ✓ 子供の姿を含めた学校経営のビジョンを明文化し、自分の言葉で語り、状況の変化に応じて見直しているか。
- ✓ 日々の教育活動の中で、ビジョンが共通言語として教職員や子供に参照される仕組みを意図的に作っているか。
- ✓ ビジョンに相反する事象を、データも使いながら特定し、課題を踏まえて定期的に改善に繋げているか。

## 2 カリキュラム・デザイナーを束ねる管理職

- ✓ ビジョンを反映した教育課程の編成に加え、その実現に向け産官学や地域の資源を積極的に活用しているか。
- ✓ 主体的・対話的で深い学びやICTのラストアイテム化の全校的な実現に向けた具体的な仕掛けを作っているか。
- ✓ 校内研修等を通じて、授業を軸とした同僚性の構築や教科・学年等の縦割りを越えた知の共有を図っているか。

## 3 マネージャーとしての管理職

- ✓ ビジョンを実現するため、個々の教職員が相乗効果として力を発揮できる学校組織を柔軟に構築しているか。
- ✓ 教職員の負担の平準化や業務改革など働き方改革により、子供と向き合う質の高い時間の確保に繋げているか。
- ✓ 小さなSOSを見逃さず未然防止を図るとともに、危機管理の場面では迅速かつ的確な意思決定をしているか。

## 4 ファシリテーターとしての管理職

- ✓ 教室等で起きている課題を自ら直視し、学びの状況や指導についてのフィードバックを教職員に行っているか。
- ✓ 教職員の個々の状況に応じ、対話と奨励など成長のためのサポートを適切なタイミングで提供しているか。
- ✓ 自分にしか出来ない付加価値の創出と、自分が異動しても続く持続可能性の確保のバランスを図っているか。

## 5 バッファーとしての管理職

- ✓ 積極的な情報発信や家庭・地域の声への傾聴に加え、学校運営に巻き込む仕掛けを意図的に作っているか。 **55**
- ✓ 国や教育委員会の施策の動向にアンテナを張り、必要に応じて学校経営や日々の教育活動に反映しているか。
- ✓ 学び続けることを通じて、自己を客観視・アップデートするとともに学校経営を多角的な視点から見ているか。

# 学校経営ルーブリックの試行について

ルーブリック策定で終わらせず、「**魂を込める**」ための仕掛けとして、以下の3つを実施中。

## ① 教育委員会定例会「中学校区での合同校長プレゼン」



## ② 人事評価に係る校長面談



## ③ 年に1度全教師が授業を公開する「学校訪問」での打合せ



詳細は  
こちら



「管理職のリーダーシップ」というマジックワードを要素分解する。ルーブリック策定で終わらせず、魂を込める仕掛けとは？

♡ 9

戸田市教育委員会note  
2023年6月22日 18:34



〇〇小	月 日	ルーブリックの視点	学校訪問を踏まえたフィードバック
1. ビジョンリー		1-1. 子供の家を含めた学校経営のビジョンを明文化し、自分の言葉で語り、状況の変化に応じて見直しているか。	
		1-2. 日々の教育活動の中で、ビジョンが共通言語として教職員や子供に参照される仕組みを意図的に作っているか。	
		1-3. ビジョンに相反する事象を、データも使いながら特定し、課題を踏まえて定期的に改善に繋げているか。	
2. カリキュラム・デザイナー		2-1. ビジョンを反映した教育課程の編成に加え、その実現に向けた産官学や地域の資源を積極的に活用しているか。	
		2-2. 主体的・対話的で深い学びやICTのマストアイテム化の全体的な実現に向けた具体的な仕掛けを作っているか。	
		2-3. 校内研修等を通じて、授業を軸とした同僚性の構築や教科・学年等の縦割りを越えた知の共有を図っているか。	
3. マネージャー		3-1. ビジョンを実現するため、個々の教職員が相乗効果として力を発揮できる学校組織を柔軟に構築しているか。	
		3-2. 教職員の負担の平準化や業務改革など働き方改革により、子供と向き合う質の高い時間の確保に繋がっているか。	
		3-3. 小さなSOSを見逃さず未然防止を図るとともに、危機管理の場面では迅速かつ確かな意思決定をしているか。	
4. ファシリテーター		4-1. 教室等で起きている課題を自ら直視し、学びの状況や指導についてのフィードバックを教職員に行っているか。	
		4-2. 教職員の個々の状況に応じ、対話と奨励など成長のためのサポートを適切なタイミングで提供しているか。	
		4-3. 自分にしか出来ない付加価値の創出と、自分が異動しても続く持続可能性の確保のバランスを図っているか。	
5. バッファー		5-1. 積極的な情報発信や家庭・地域の声への傾聴に加え、学校運営に巻き込む仕掛けを意図的に作っているか。	
		5-2. 国や教育委員会の施策の動向にアンテナを張り、必要に応じて学校経営や日々の教育活動に反映しているか。	
		5-3. 学び続けることを通じて、自己を客観視・アップデートするとともに学校経営を多角的な視点から見ているか。	

学校発の提案を、  
応援しませんか？

戸田市未来の学び応援基金



# 未来の学びの実現に向けたクラウドファンディングについて

「戸田市から日本の教育を変える」をコンセプトに、これまでの教育・学校の「当たり前」を問い直す、学校主体の夢のある学校改革や教育委員会による産官学連携の下での教育改革を通じた未来の学びの実現に向け、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施。確保した資金は、一般の寄附金と併せて、戸田市未来の学び応援基金へ積立て。

## 実施期間

令和5年10月から令和6年3月まで

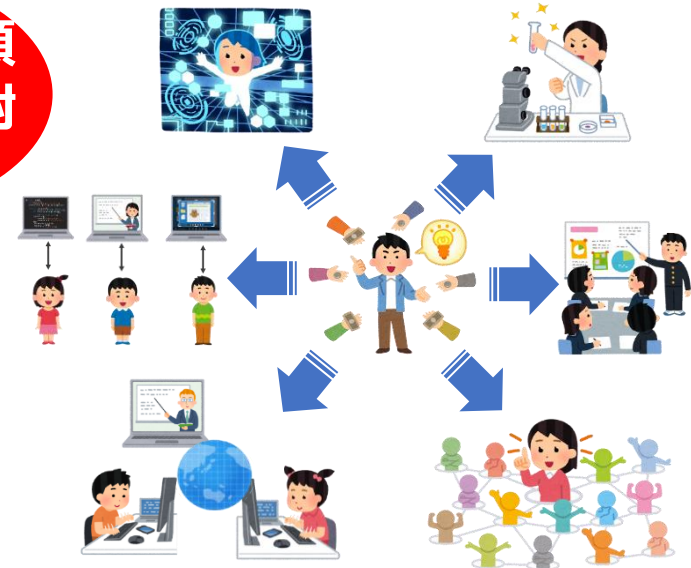
## 対象テーマ

PBL（課題解決型学習）、部活動の地域移行、デジタルの活用、自然体験、インクルーシブ教育、教師の資質向上など

## 寄附者への還元

ホームページ等を通じて事業成果報告（高額寄附者は別途検討）

昨年度は目標額  
500万円の寄附  
達成！



脱・正解主義

脱・自前主義

脱・予定調和

脱・教師主導

脱・3K  
(経験と勘と気合い)



# 未来の学びの実現に向けた各学校等からの提案内容（令和5年度分）

## 学校主体の夢のある学校改革

- ・専門家活用による**PBL**（課題解決型学習）の推進
- ・子供たちの学びと実社会をつなぐ**PBLプラットフォーム**開発
- ・**自然体験**を核とした学校づくりーフルーツロードー
- ・学校全体での**インクルーシブ**教育の推進
- ・すべての子供たちにとって**居場所**となる学校づくり
- ・教師を伴走支援！**多層型支援システム**の構築
- ・「生徒を主語」とするための**教師の学びをサポート**
- ・**メタバース技術**を活用した美術館の継続と発展
- ・**部活動の当たり前を問い直す**スポーツクラブの設立



詳細資料は  
こちら！

## 教育委員会による産官学との連携の下での教育改革

- ・**匠の技**の可視化について



※ 仮に各提案に必要な経費が全て確保できなかった場合でも、各プロジェクトは優先順位を定めるなどした上で、実施する。

※ 仮に全ての提案の実施に必要な経費以上の資金が確保できた場合には、ある学校の提案内容を他の学校で実施することなど、基金の設置目的及び基本理念を踏まえた他のプロジェクトを実施することに活用予定。

# 未来の学びの実現に向けた5つの要件

提案は、次の要件のうち、**全部又は一部**を満たし、これまでの教育・学校の「**当たり前**」を問い直す**全国的なモデル**となるもの（戸田市未来の学び応援基金条例第2条に規定）

## 脱・正解主義

正解を探し求める学習から、正解のない課題に取り組む学習や主体的に課題を設定する学習へ転換し、教科等横断的な学び等を実現すること

1

## 脱・自前主義

学校が全ての教育活動を行うのではなく、産官学民や地域の資源を取り入れながら、社会に開かれた教育課程を真に実現する、持続可能な教育及び学校を目指すこと

2

## 脱・予定調和

教師により計画された学習に子ども達に取り組むのみならず、想定外の学びや挑戦による失敗を通じたワクワク感や深い学びを達成するものであること

3

## 脱・教師主導

教師が主導する授業や全ての子ども達が一斉に同じ内容を学ぶ授業から、子どもが主導する学びや個別最適な学びに転換するとともに、子ども同士の、又は子どもと教師の対話によるフィードバックを行うことを通じて、子どもも教師も協働して学び続ける学校を真に実現すること

4

## 脱・経験と勘と気合い

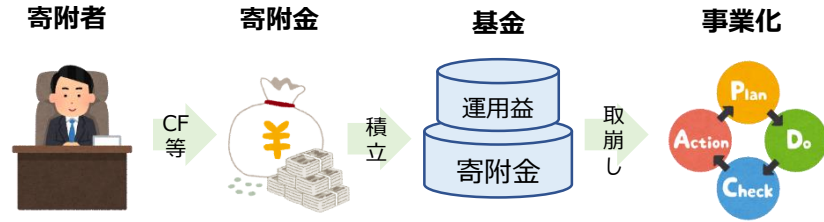
教師の経験、勘及び気合い（3K）のみによる指導から脱し、暗黙知の共有化及び形式知への転換並びに学習状況の可視化等を通じて、客観的な根拠を参照した政策及び実践を目指すこと

5

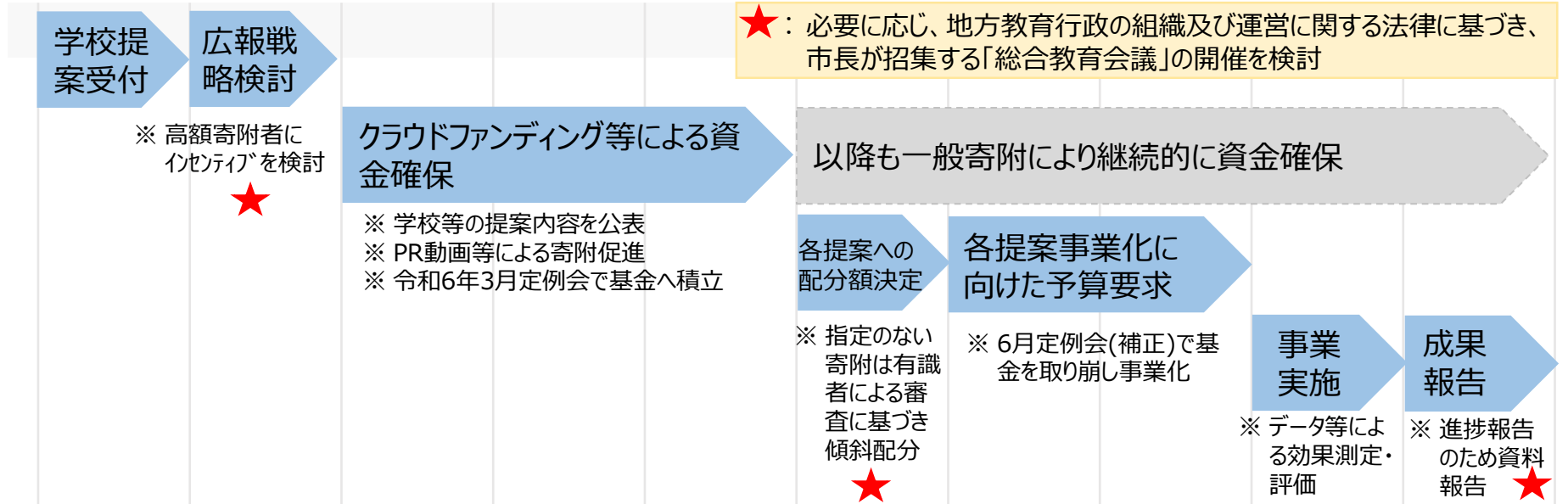
# 戸田市未来の学び応援基金の活用について

## 設置目的

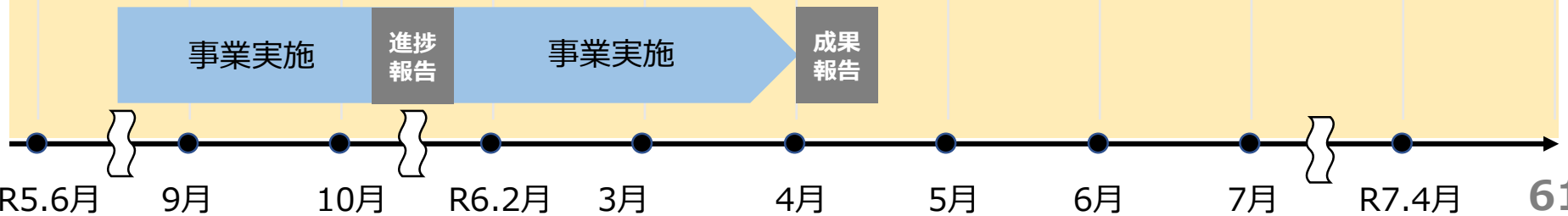
本市の学校を日本の教育改革のモデルとするという趣旨に基づき、学校主体による夢のある学校改革や教育委員会による産官学連携の下での教育改革を通じた未来の学びの実現に要する経費を寄附等により確保し、年度を超えて機動的に運用



## R5提案事業の今後のスケジュール (現時点での想定であり、今後変更が有り得る)



## R4提案事業の今後のスケジュール



# 新たな学び（次期学習指導要領）と働き方改革 H28.12

**新たな学び（次期学習指導要領）は、「働き方改革」なしでは実現できない**

- 業務や教育活動などを見直し精選する期間が、新学習指導要領の移行期間
- 次期学習指導要領に向けた準備と教師の働き方改革は**同時進行**で進める

**新たな学びに向けた授業改善を業務改善のトリガーに**

- 働き方改革ができなければ、新学習指導要領の求める授業改善はできない
- 働き方改革の絶好のチャンスだか、働き方改革が失敗すれば、新たな学びも次期学習指導要領の実現も難しくなる
- 子供たちの健やかな育ちを真剣に考えればこそ、**働き方改革を最優先に**

**ヒト教師にしかできない教育とは何か**

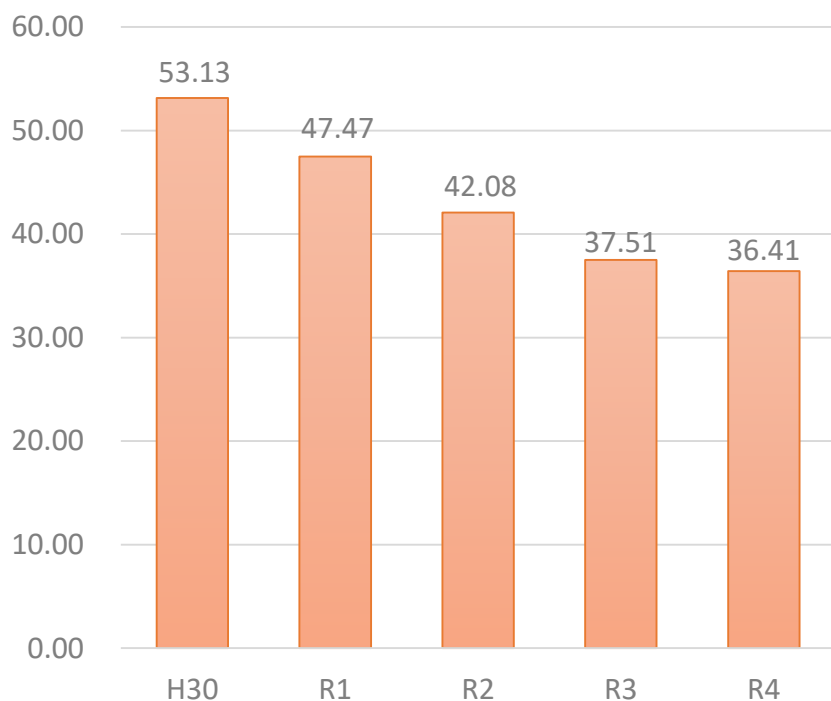
- 近い将来ヒト型のロボット教師が教壇に立つ時代が到来するかも知れない
- ロボット教師は、24時間365日働ける、心身のコンディションが一定、指導の記録を大量かつ正確に保存できる
- ヒトがヒトに教えてもらうのが最良のアウトプットをもたらすかどうかはわからない。公教育のサプライシステムの根幹だったヒト教師にしかできない教育とは何か、が問われているのかもしれない



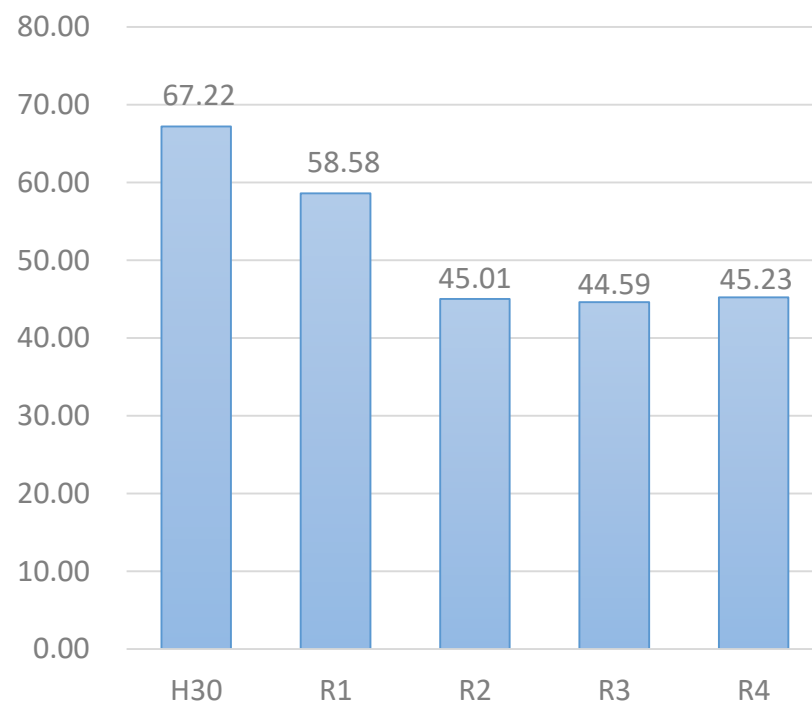
# 時間外在校等時間の推移

在校等時間は、**5年前と比べ小・中学校とも約7割**となっており、**30%程度の削減**を達成

小学校(6月)



中学校(6月)



**攻めの学校経営（新たな教育活動を積極果敢に導入するなど）を行っている学校ほど在校等時間の減少率が高い傾向にある**

# 時間外在校等時間の縮減に向けた取組の3ステージ

## 1 市教育委員会主導による意識改革（80h超の解消）

- 戸田市チーム学校運営委員会「**3K（可視化、共有化、効率化）**」の取組
  - 民間企業の社員を3ヶ月間、学校へ派遣
  - 学習指導要領の趣旨の実現と働き方改革の取組を車の両輪に
  - 学校における働き方改革に係る緊急提言（H29.8）の積極的な取組
  - 戸田市部活動の在り方に関するプロジェクト（ガイドラインの作成）
- 100h超が目立っていたが、**学校の自走**もはじまり**80h超が大幅に減少**

## 2 校長会**ピアレビュー**と**学校の創意工夫**（市内全校への横展開）

- 学校行事の教育効果の再考など
- 学校間格差が大幅に減少するとともに、**80h超がさらに減少**

## 3 個に応じた教職員への支援

- 80h時間超の教職員を中心に管理職による面談を強化
  - 本人及び管理職に対して**教育委員会事務局職員による面談**
- 小学校は80h超は0で、45h超が各校数名 → 県内でトップクラス
  - 中学校は80h超が全体で数名、45h超が各校数名 → 県内でトップクラス
  - いずれも、大会等の役員、全国大会出場の顧問など市外等の要素による
  - 教頭、主幹教諭、初任者など特定の職種への支援

# 緊急提言を受けた自分事としての取組（令和5年9月～）

## 1 総合教育会議

- 教育を取り巻く環境の改善には、**教育委員会と首長部局との連携が不可欠**
- 市長及び教育委員から以下のような取組が考えられると発言
- ◆**地域住民・市議会に対して「学校・教師が担う業務に係る3分類」について周知**
- ◆**人的・物的支援に係る予算措置を検討**
- ◆**保護者・地域住民からの要望等に対し市教委・首長部局含めチーム戸田市で対応**

## 2 校長会ピアレビュー

- 全校長が当事者意識を持ち、**学校主体でできることや、一斉に取り組むべきこと等**を検討
- 短期（今すぐ）、中期（R6当初）、長期（3年以内）**にできることを検討
- 外部人材の活用及び専門家からのコンサルティングとフィードバック

## 3 学校運営協議会研修

- 市教委主導**で市内全小中学校の学校運営協議会委員・管理職の研修を実施
- 緊急提言及び「学校・教師が担う業務に係る3分類」**についての周知  
→学校運営協議会が主体となることができることの検討
- 学校運営協議会を主体として、学校の働き方改革を推進している**事例の共有**

## 4 その他

- 市の広報誌**に「3分類」について掲載し、**市民へ啓発**
- 学校から保護者等に「3分類」等の啓発（学校だより、SNS、HPなど）

# 教育改革の3ステージ

- ◎教育委員会が**ビジョン提示**
- ◎**新たな施策**の創造
- 教育委員会が原材料・人財**の用意から料理まで行う

- ◎教育委員会が**学校に伴走支援**
- 施策の**トライ&アプローチ**
- 教育委員会が原材料・人財**を用意し、料理は学校で

- 教育委員会の役割は、「**逸走や暴走を軌道修正する**」ことにフォーカス
- 時には**学校が原材料・人財**の用意から行うことも



ステージ1  
(独走)

ステージ2  
(伴走)

ステージ3  
(自走)

- ▲一部のリーダーが目立つ（多くの関係者にとって**他人事**）
- ▲現場の姿は**見えない**（沈黙か抵抗）
- ▲学びの**変革はまだ「点」**（施策と実践のギャップ）
- ▲先進校はごくごく**一部のみ**

- 市役所や職員室で**ビジョンに共感する者**が出始める
- 現場の姿が**見え始める**
- 学びの変革が**「点」から「線」**になる（持続可能性には課題）
- ▲先進校はまだ**一部**

- ◎ビジョンが**自分事**として関係者に**腹落ち・浸透**
- ◎現場が**目立つ**ようになる
- ◎学びの変革が**「線」から「面」**になり、人事異動に依存しない**持続可能**なものに
- 市内全校が先進校**に



# 他人を変えるのではない。変化はまず自分から！

何で変わら  
ないんだ！

余計な口出  
しばかり…

言った通りに  
なぜしない！

こちらの立場  
も考えてよ…



教育長が変わる

管理職が変わる

教室が変わる



心理的安全性

同僚性・知の共有

挑戦・失敗の許容

心理的安全性

同僚性・知の共有

挑戦・失敗の許容



指導主事・職員が変わる

職員室が変わる

子供が変わる